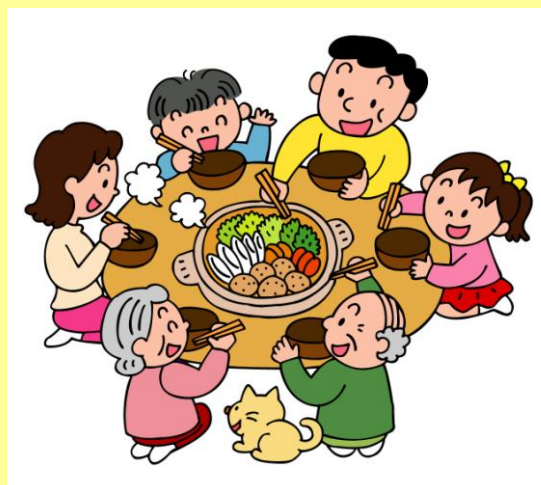


みんなではぐくもう！食育のまち ひらつかの未来

# 平塚市食育推進計画

～平成22年度から平成26年度～



平塚市

## はじめに



私たちが健やかに生きていくために「食」は欠かせない存在であり、命を支える源です。

近年、多様化する食文化の中で、私たちはさまざまな食生活を楽しむことができるようになりました。一方、食べ物があふれる「豊食・飽食」の時代から、「崩食」の時代とまで言われるように、食生活の乱れや生活習慣病の増加、食の安全など、「食」に関する問題も生じています。

このような状況の中、国では平成17年7月に食育基本法を施行するとともに、平成18年3月には食育推進基本計画を策定しました。食育基本法では、食育を「生きる上での基本であって、智育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置づけています。

その「食育」の大切さについて明治の時代に唱えたのが、この平塚の地に居を構えた村井弦齋でありました。弦齋は、自著「食道楽」の中で、「小児には徳育よりも智育よりも、体育よりも、食育がさき。体育、徳育の根源も食育にある」と、まさに「食育基本法」の精神の根幹をなす理念を、今から100年以上も前に述べていたことは驚くべき先見性であったといえるでしょう。

「平塚市食育推進計画」では、この弦齋の「食」に対する考え方を通じて食育を広めていくことを一つの特徴としています。また、農業の盛んな本市ならではの地産地消をいかした食育の推進も計画の柱として掲げました。さらに、本市は食に関する幅広い活動を展開されている食生活改善推進団体の発祥の地であり、その活動は平塚の食育活動を推進する大きな原動力となっております。今後は、本計画に基づき、家庭や地域、生産者、教育機関など、市民の皆様や関係団体の皆様と連携し、地域に根ざした食育活動が、より一層充実したものになるよう、取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、本計画の策定にあたり、熱心にご議論をいただきました食育推進委員の皆様やご意見をお寄せいただきました市民の皆様をはじめ、ご尽力を賜りました関係各位に心からお礼申し上げます。

平成22年3月

平塚市長 大藏律子

## 平塚市食育推進計画 目次

第1章 計画の策定にあたって	1
1 計画策定の趣旨	2
2 計画の位置づけ	4
3 計画の期間	5
第2章 食生活を取り巻く現状	7
1 本市の現状と課題	8
2 アンケートからみた本市の食の現状	9
第3章 計画のめざすもの	21
1 基本理念	22
2 基本方針	22
3 計画指標	24
第4章 基本的施策	29
1 家庭における食育の推進	30
2 学校・保育所等における食育の推進	34
3 地域における食生活改善のための取組みの推進	37
4 食育推進運動の展開	45
5 生産者と消費者の交流の促進及び環境との調和のとれた農水産業の活性化	48
6 食文化の継承、展開のための活動の支援	55
7 食品の安全性、栄養・その他食に関する調査、情報提供	60
第5章 ライフステージに応じた食育の推進	63
第6章 推進体制の整備	65

## 参考資料

平塚市食育推進委員会設置要綱	68
平塚市食育推進委員会委員名簿	70
平塚市食育推進計画関連各課	71
平塚市食育推進計画策定体制	72
用語解説	73
平成19年度食育推進のための実態調査	77

## 第 1 章

### 計画の策定にあたって

# 第1章 計画の策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

近年、核家族化など社会情勢による食の問題、ライフスタイルの変化による朝食の欠食や過食の問題、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の増加、あるいは食品表示の偽装による安全の確保など多方面にわたる食の問題が深刻となっています。

こうした中、国は国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育を総合的、計画的に推進するための法律「食育基本法」を平成17年6月に制定し、平成18年3月に施策推進のための基本の方針を定めた「食育推進基本計画」を策定しました。

また、食育基本法第10条では、地方公共団体の責務として、その地方公共団体の特性をいかした自主的な施策の策定及び実施を促しています。

本市においても、共通の課題を有する一方、特有の課題の改善も必要とされます。自ら食のあり方を学ぶ必要性に気がつくこと、未来を担う子どもたちが豊かな人間性を育み食べることの重要性を考える力をもつこと、平塚ゆかりの文化人が残した食育の精神を継承していくこと等、市民一人ひとりが実践できる食育のまちづくりを目標とした「平塚市食育推進計画」を策定します。

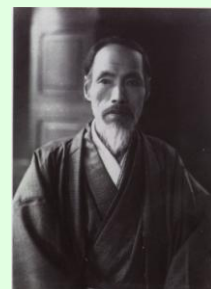
### 食育とは

食生活における知識・選択力の習得を通じた単なる食生活の改善にとどまらず、食を通じたコミュニケーションやマナー等の食に関する基本所作の実践に加えて、自然の恩恵等に対する感謝の念と理解、優れた食文化の継承等食に関する基礎の理解など、広範な内容が含まれます。

「平成20年 食育白書」から

村井弦齋

平塚にゆかりのある明治時代の小説家・村井弦齋は、  
「小児には、徳育よりも、智育よりも、食育が先。  
体育、徳育の根源も食育にある」  
明治36年に著した小説『食道楽』の中でこう記しています。



## 「食育」という言葉は、いつ頃から使われているの？

- 「食育」という言葉は、明治時代から使われており、明治31年に発行された石塚左玄「食物養生法」と明治36年に発行された村井弦齋「食道楽」の中では次のように記されています。

(食物養生法)

「体育も智育も才育も、すべて食育であると認識すべき」

(食道楽)

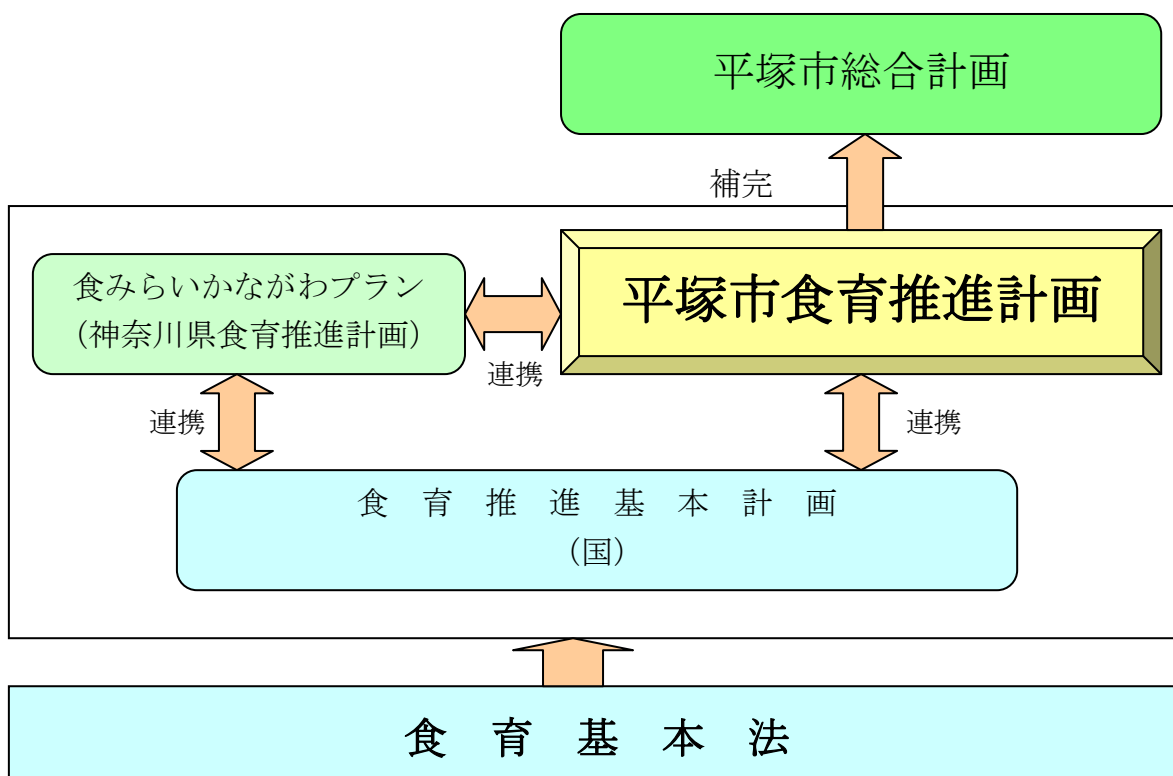
「小児には、徳育よりも智育よりも体育よりも、食育が先。体育、徳育の根源も食育にある」

- 「食道楽」は、東京の上流家庭を舞台にし、その中で和洋中の様々なメニューとその調理法などを紹介しているユニークなものとして、当時の大ベストセラーとなりました。
- 村井弦齋は、「食道楽」の莫大な印税をもとに神奈川県平塚市に広大な土地を求め、その屋敷内に果樹園、野菜畑、畜舎などを配置し、食材づくりの段階から「食道楽」の世界を実践しようとしてきました。
- 平塚市では、その跡地にある村井弦齋公園で毎年「村井弦齋まつり」が開催され、「食道楽」に登場する600以上のレシピの中から家庭でもできるメニューを紹介する弦齋料理教室などが開かれています。

「食みらい かながわプラン」から

## 2 計画の位置づけ

- (1) この計画は、「食育基本法」の目的・基本理念をふまえ、同法第18条第1項に定める市町村食育推進計画として、本市の食育推進の方向性、めざす姿を示し、本市が取り組む施策を明らかにするとともに、個別計画として「平塚市総合計画」を補完する位置付けを有する計画です。
- (2) すべての食育関係者並びに市民がそれぞれの特性をいかしながら、連携を図り、食育活動に取り組むための基本事項を示しています。



### 食育基本法第18条第1項

市町村は、食育推進基本計画（都道府県食育推進計画が作成されているときには、食育推進基本計画及び都道府県食育推進計画）を基本として、当該市町村の区域内における食育の推進に関する施策についての計画（以下「市町村食育推進計画」という。）を作成するよう努めなければならない。

### 3 計画の期間

本計画の期間は平成22年度から平成26年度までの5年間とし、その間に中間実態調査を実施します。なお、社会情勢の変化等によって見直しが必要になった場合には、計画期間内であっても計画を見直します。

計画の進行図



## 第 2 章

### 食生活を取り巻く現状

## 第2章 食生活を取り巻く現状

### 1 本市の現状と課題

核家族化やライフスタイルの変化に伴い、家族と食卓を囲む機会が減少し、栄養の偏りや欠食などの食生活の乱れによって、生活習慣病が増加する等、健康面や精神面への影響が懸念されています。また、自然環境の中で農畜産物を生産する様子に触れる機会が減り、食べ物と生産現場のつながりを実感することが少なくなっています。そのような中、食の海外依存化に警鐘を鳴らすような食の安全を脅かす問題や、食品ロスや輸送における環境への影響を解消するために、地産地消を軸にした顔の見える食環境整備への関心が高まってきています。

食に対する関心が一段と強くなっている中、市民の食生活の実情を調査するため、平成19年9月5日から9月30日にかけて「平成19年度食育推進のための実態調査」を行いました。調査結果では、本市においても国や県の調査と同様の傾向がみられ、朝食の欠食率は10代後半から30代が高い数値を示しました。また、朝食をとっている人でも、バランスのとれた食事内容は約50パーセントと低い数値を示しています。この傾向は「平塚5歳児生活実態調査」でも顕著に現れ、単に「朝食をとろう」という普及だけでは問題の解決にならないことを示しています。また、心身の成長が著しい世代、これから子どもを産み育てていく世代、社会の中核を担いつつ、子育てに取り組んでいる世代での食の改善への方策は、優先して実施するべきものといえます。

しかしながら、同世代での食育への関心度の低さや食の外部化、朝食の孤食化という現状を踏まえると、地域社会全体が次の世代や家庭に対し食育を啓発していく意識をもつことが前段として必要といえます。本市は近年、様々な食文化を融合し、都市型の利便性をいかした食生活を発展させてきた一方、豊かな土地をいかした平塚らしい食の営みが薄れてきていることが本調査でもいえます。

今後は、教育や保育・生産・流通・地域社会といった様々な視点から、食育の要である家庭へアプローチしていく体制づくりが急務といえます。

#### 「平成19年度食育推進のための実態調査」

調査目的・・・食や食育に関する市民の意識等について調査を行い、平塚市食育推進計画の策定及び食育施策の推進にあたっての基礎資料とする。

調査対象・・・(1) 平塚市内在住の0歳(保護者)～74歳までの男女  
(2) 住民基本台帳からの無作為抽出3000人

調査方法・・・郵送による送付・返送

回収結果・・・有効回答数 1179人 39.3%

## 2 アンケートからみた本市の食の現状

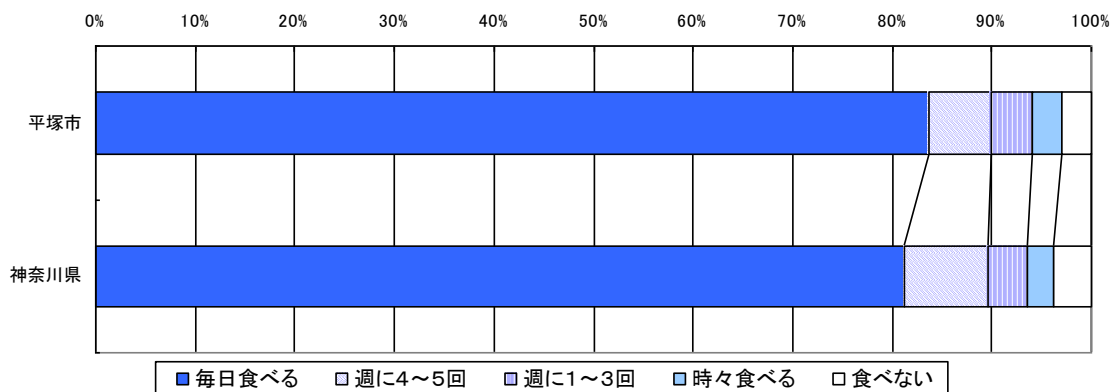
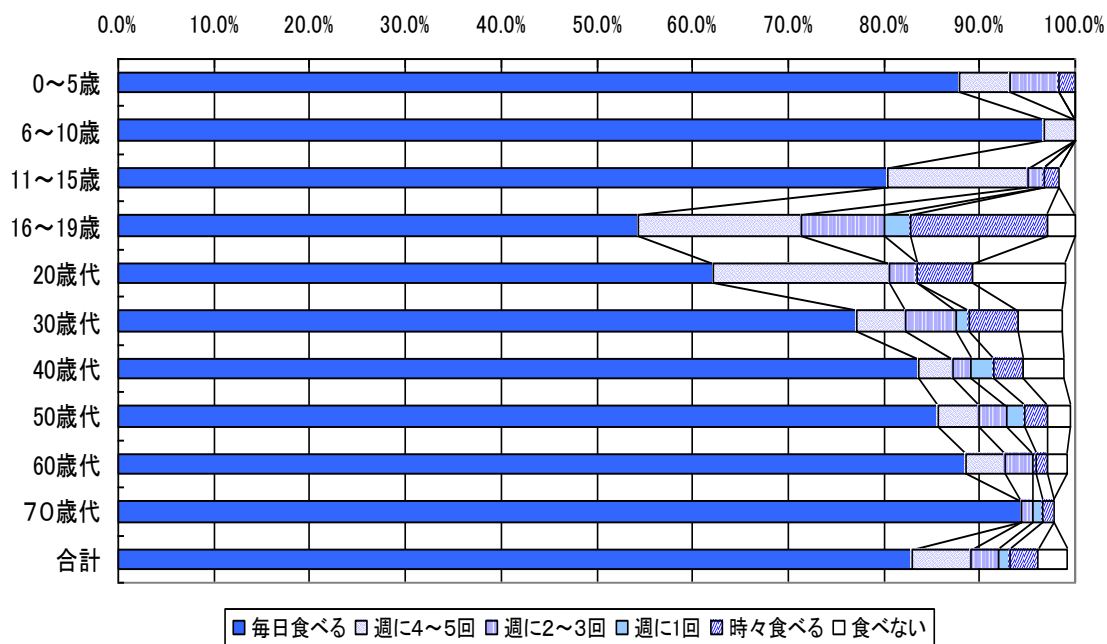
「平成19年度食育推進のための実態調査」から

### 朝食の状況について

#### ◆ 朝食を食べる人

16～19歳、20歳代で朝食の喫食率は50～60パーセントで、他の年代に比べ低い傾向です。但し全体を通してみると、毎日朝食を食べる数値は県と比べ本市では3ポイント程度高い結果となっています。

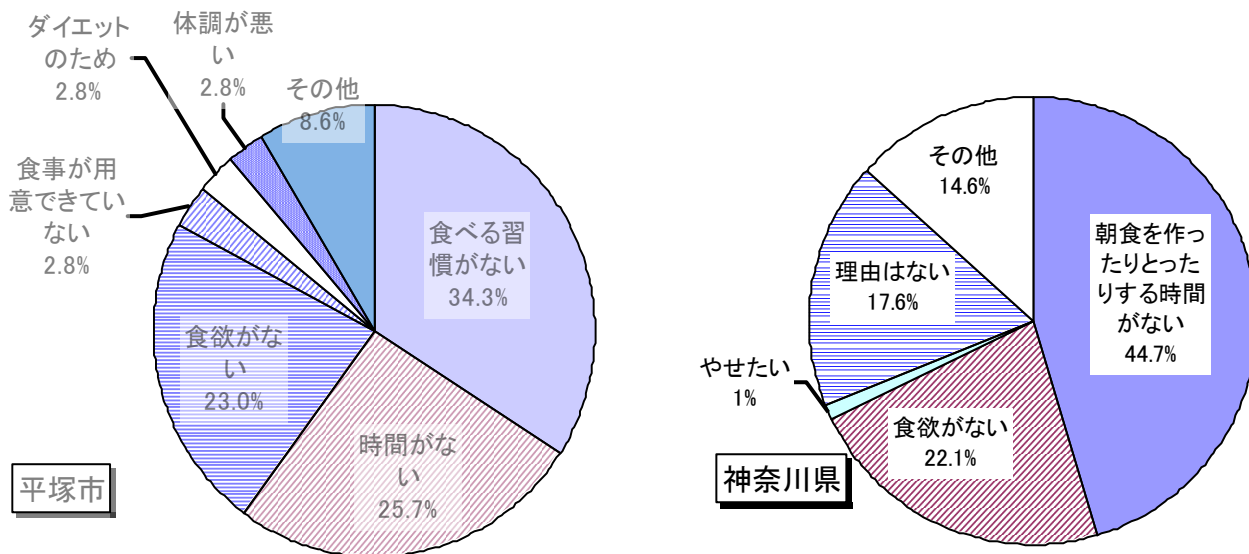
(県の数値【平成19年度】は20歳以上を対象としています)



## ◆ 食べない理由

「食べない」と答えた人は20歳代に多く、理由として、「食べる習慣がない」「時間がない」などが挙げられています。

(県の数値【平成19年度】は20歳以上を対象としています)



\*その他

20歳代 カロリー

40歳代 2食にしているため

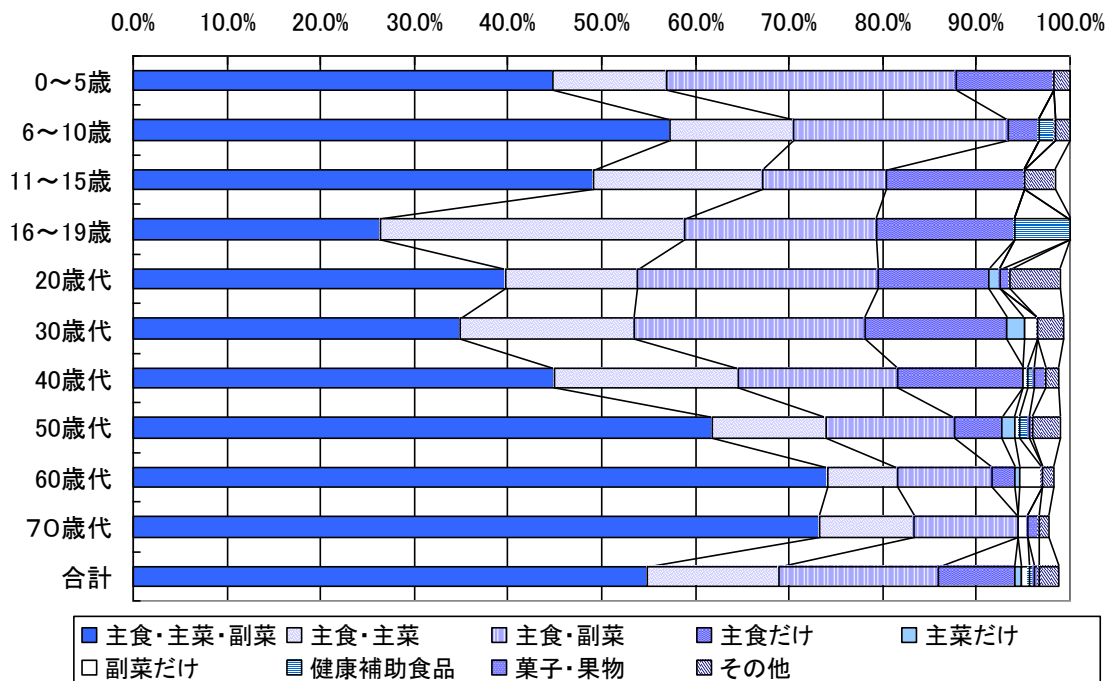
60歳代 夜遅くまで起きているので起きるのが遅いから

### 朝食の必要性

朝食を食べないと、脳にエネルギーが行き渡らず脳が活発に働くことができません。朝食は1日の活動を始めるにあたり、リズムを作り出すのにぜひとも必要なものです。朝食を抜くと、このリズムが崩れてきます。特に成長期にある子どもは体が小さくても、たくさんの栄養素を必要としています。朝食を抜く事で、1日に必要な栄養素が不足してしまいます。

◆ 朝食でどのような物を食べていますか

食べている人のうち、40～50パーセントの方は「主食・主菜・副菜」の揃ったバランスの良い食事をしています。ただ、16～19歳では「主食・主菜」だけという回答が目立ちます。全体的に朝食を食べている率は高くなっていますが、食事の内容に問題がみられます。



**主食**→ご飯・パン・麺類などの穀類のことで主に炭水化物によるエネルギーの供給源

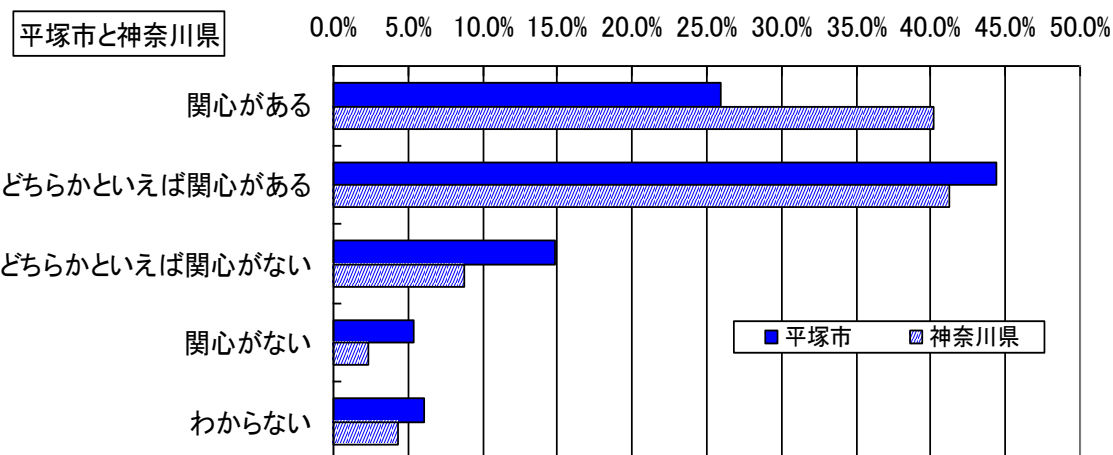
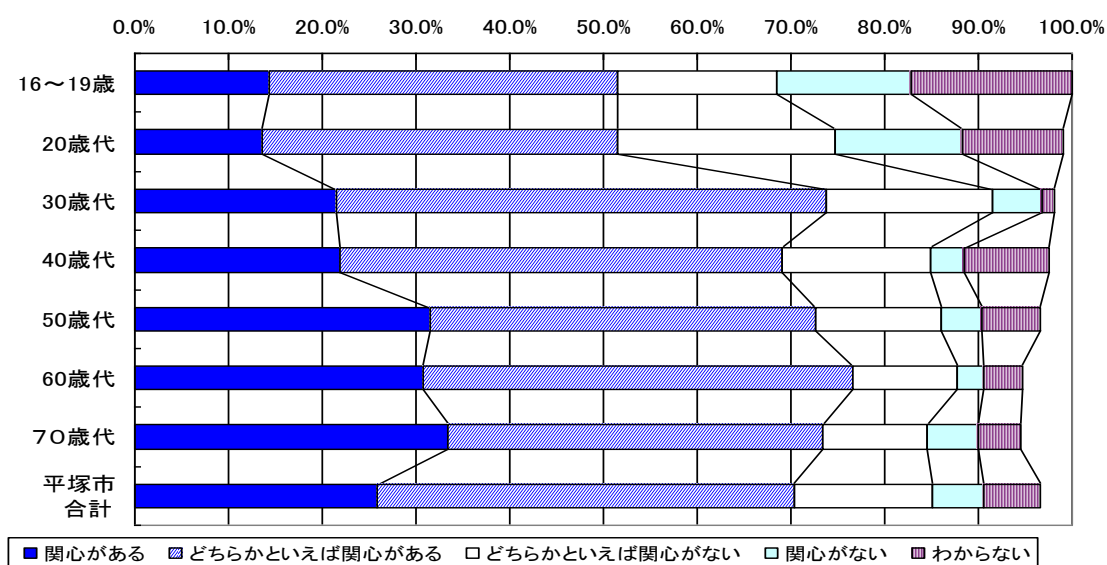
**主菜**→魚・肉・大豆製品・卵など主に良質たんぱく質や脂質の供給源

**副菜**→主に野菜を利用した料理のことでビタミン・ミネラル・食物繊維の供給源

# 食育について

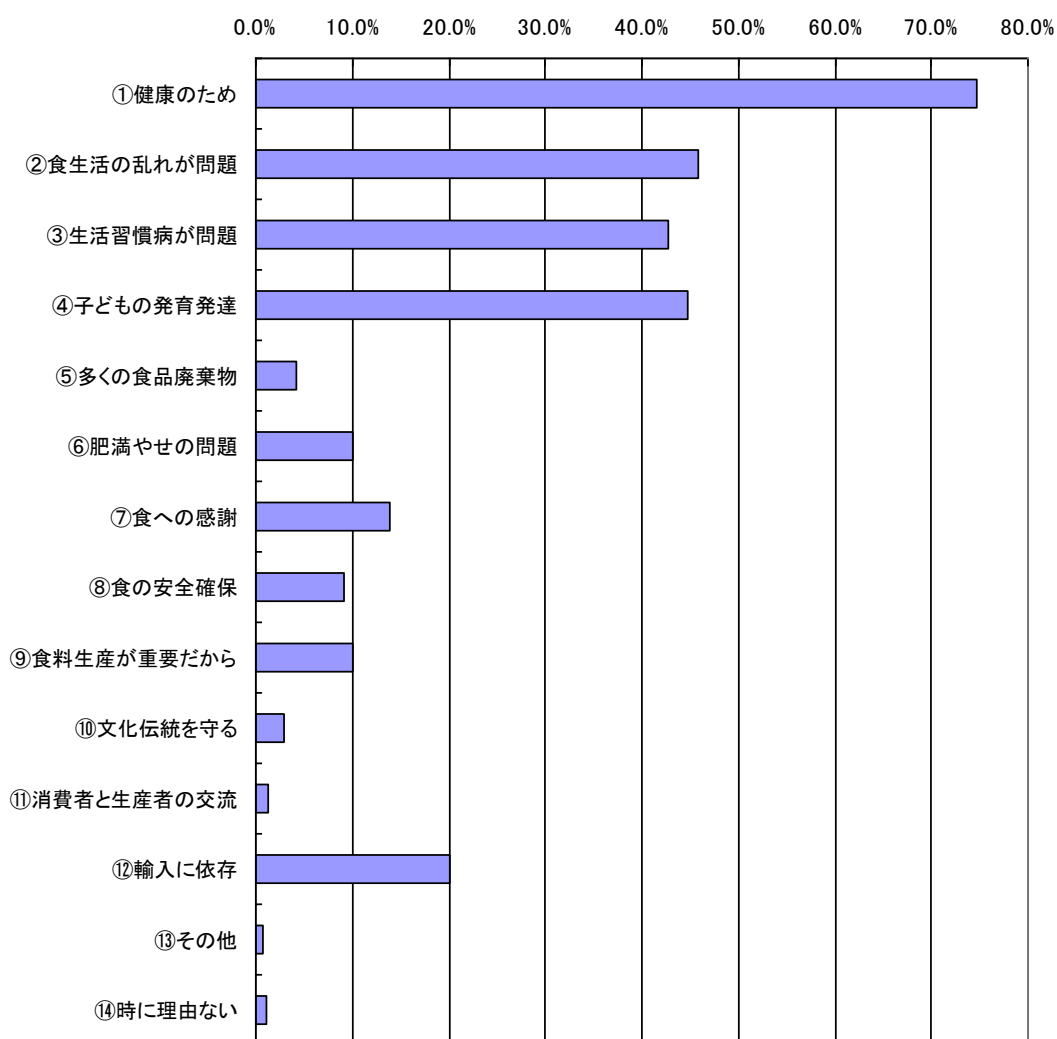
## ◆ 食育に対する関心度

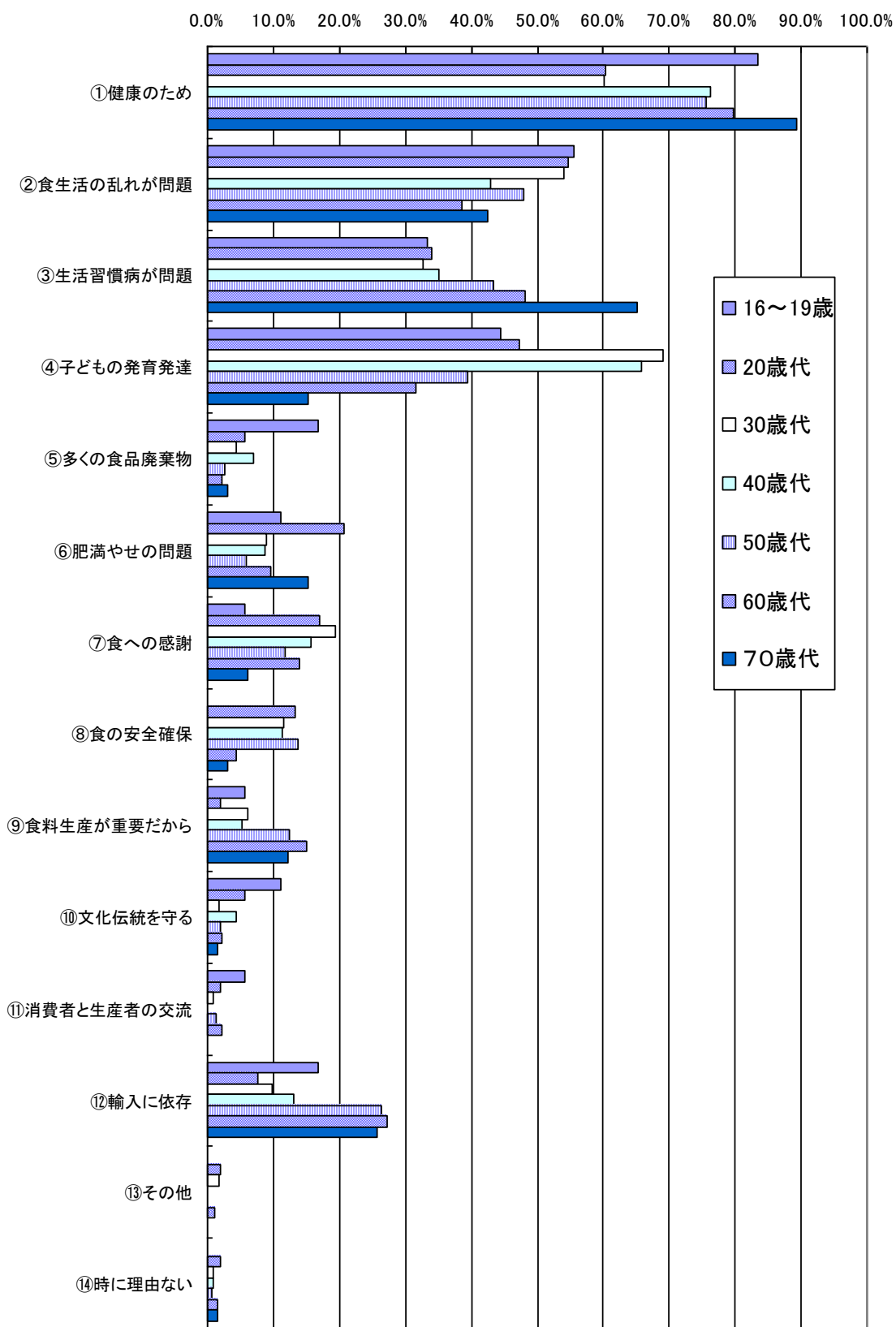
「食育に関心がある」は県と比べ、14ポイント程度低く、「どちらかといえば関心がある」と答えている人は3ポイント程度高いという結果になりました。県と比べると、全体的に食育について関心が低い傾向がみられます。  
(県の数値【平成19年度】は20歳以上を対象としています)



## ◆ 食育に関心がある理由

「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人の理由としては、「健康のため」が各年代でそれぞれ60パーセントから90パーセントと多く、次に16～19歳、20歳代では「食生活の乱れ」、30歳代、40歳代では「子どもの発育発達」、60歳代、70歳代で「生活習慣病」との回答が目立ちます。(複数回答による結果)

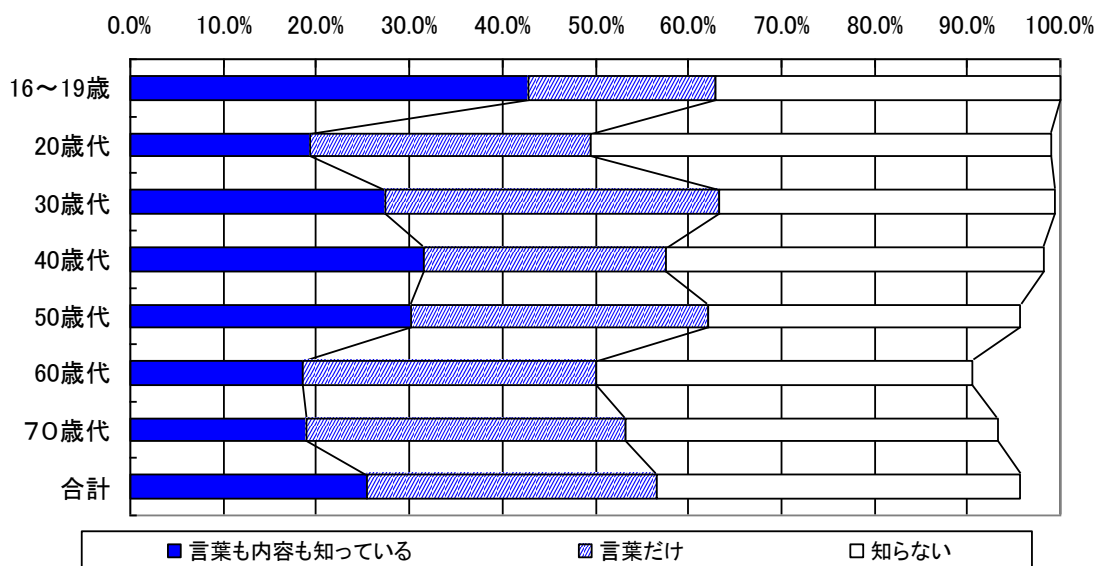




## 食と健康づくりについて

### ◆ 食事バランスガイドの認知度

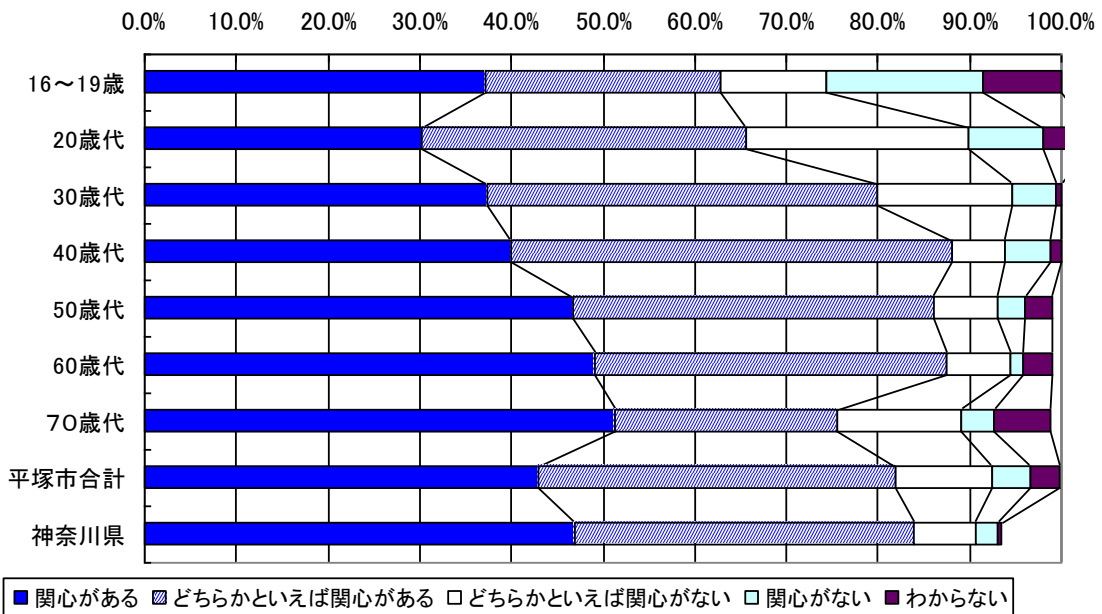
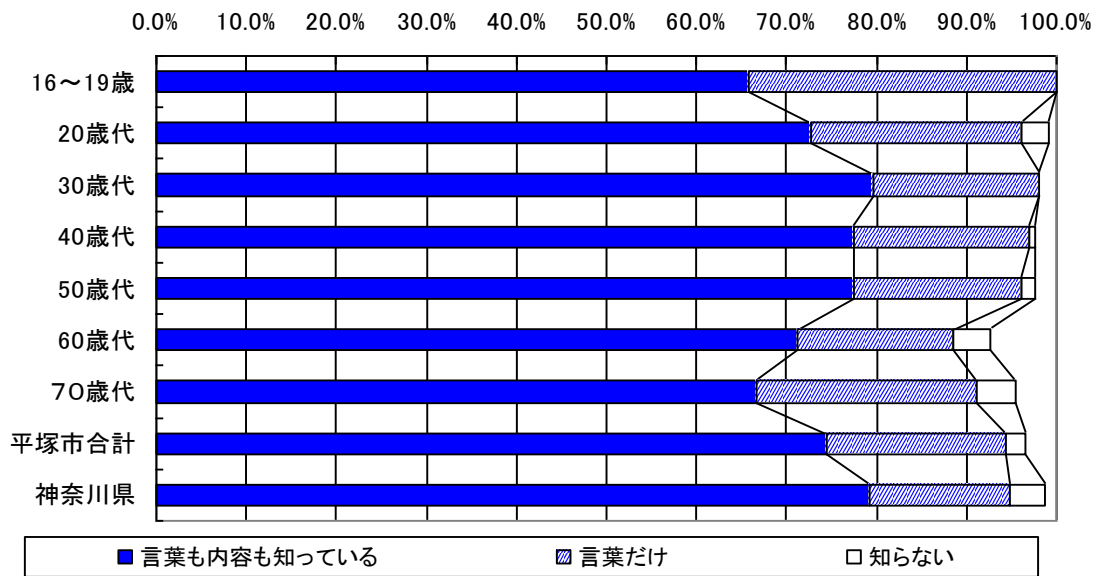
食事バランスガイドを「言葉も内容も知っている」と答えた人は16～19歳で40パーセントと、各年代の中で一番多く答えています。「言葉だけ」又は「知らない」と答えた人は、20歳代で80パーセント、30歳代以上では約70パーセントにのぼり、まだ一般的に普及していない状況がうかがえます。



## ◆ 「メタボリックシンドローム」の認知度と関心度

メタボリックシンドロームについて、「言葉も内容も知っている」と答えた人は、70パーセント程度います。内閣府の調査（19年3月）では、77.3パーセントであり、本市より高い状況でした。また、30歳代以上で70パーセントの人が「関心がある」又は「どちらかといえば関心がある」と答えています。

（県の数値【平成19年度】は20歳以上を対象としています）

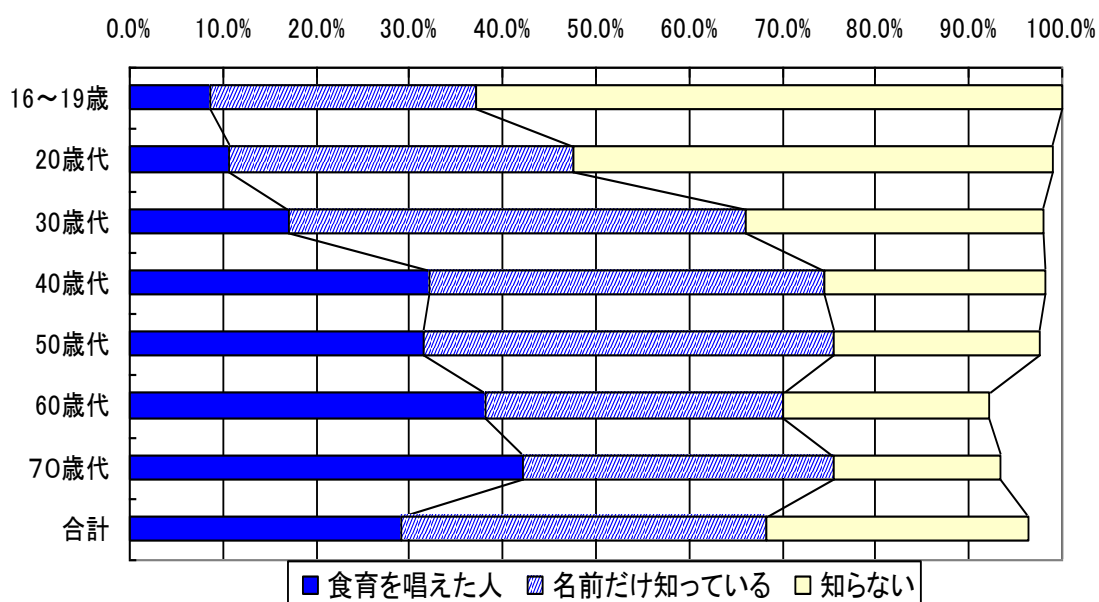


## 平塚市の食について

### ◆ 村井弦斎について

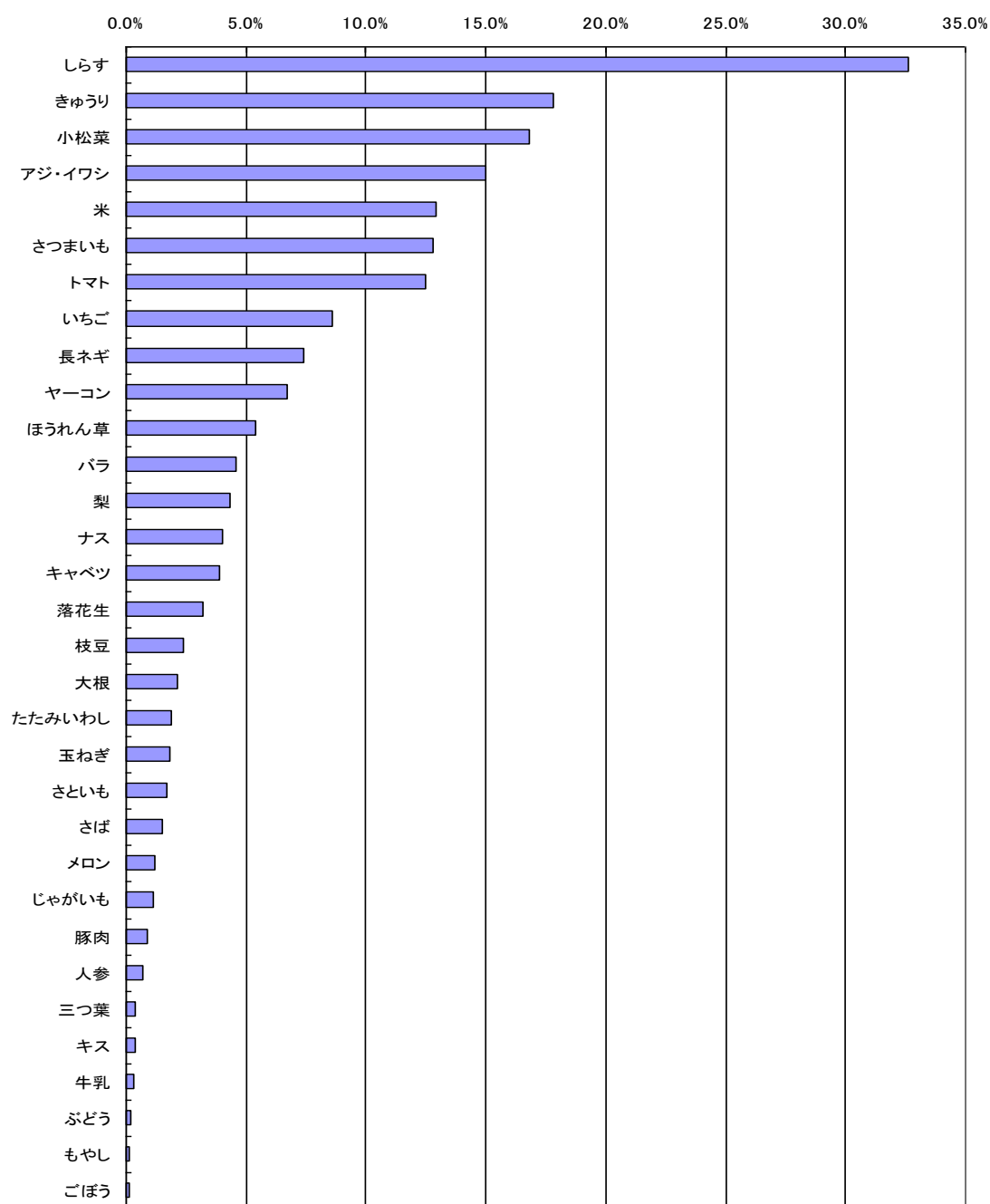
食育を唱えた村井弦斎について、年齢が上がるにつれて、内容も含め知っている人と答えている人が多く、16～19歳、20歳代では半数が「知らない」と答えています。

また全年齢の平均で見ると、約70パーセントの人が少なくとも「名前だけは知っている」と答えています。



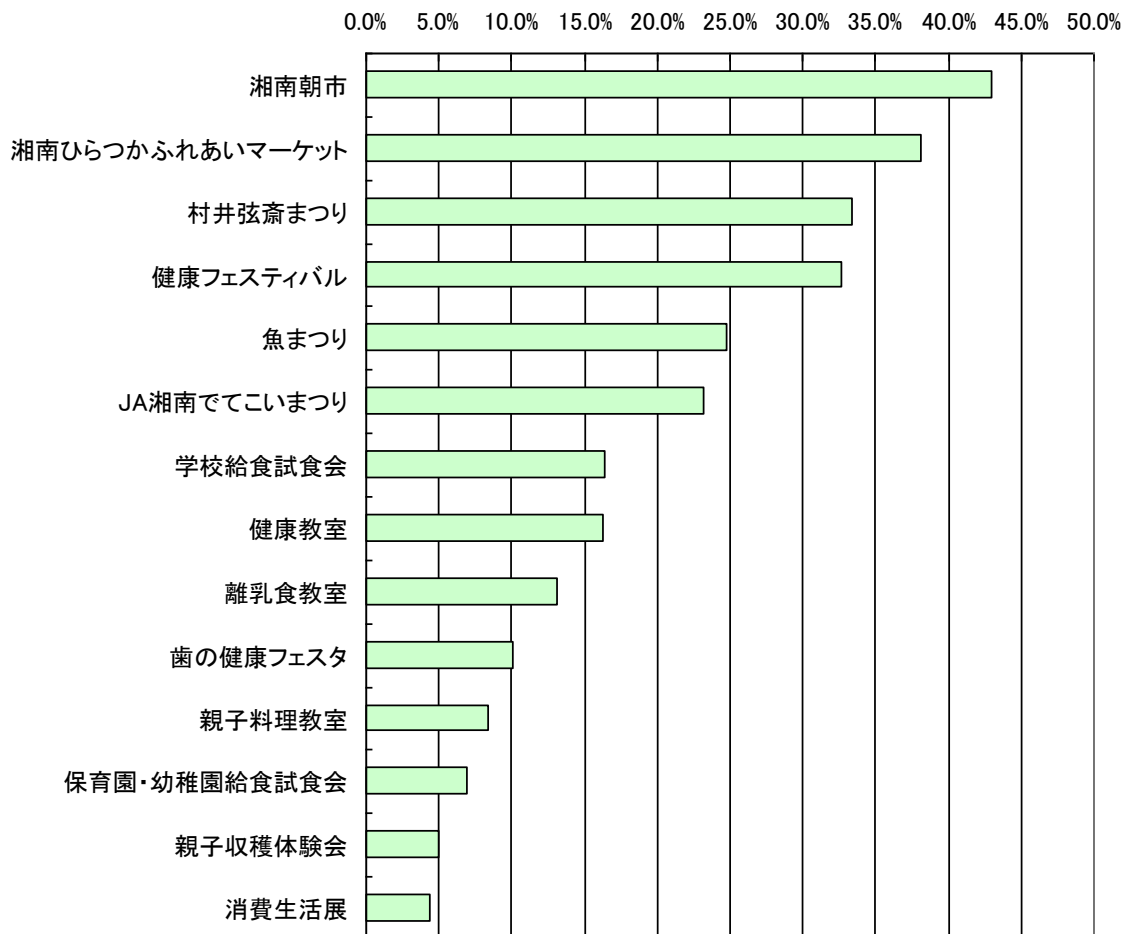
## ◆ 平塚でとれる地場産品（農水産物）の認知状況

平塚市でとれる地場産品として思い浮かぶものとしては、「しらす」との回答が多く、地場産品としての「しらす」の認知度の高さがうかがえます。次に、「きゅうり」・「小松菜」が順に続きます。（複数回答による結果）



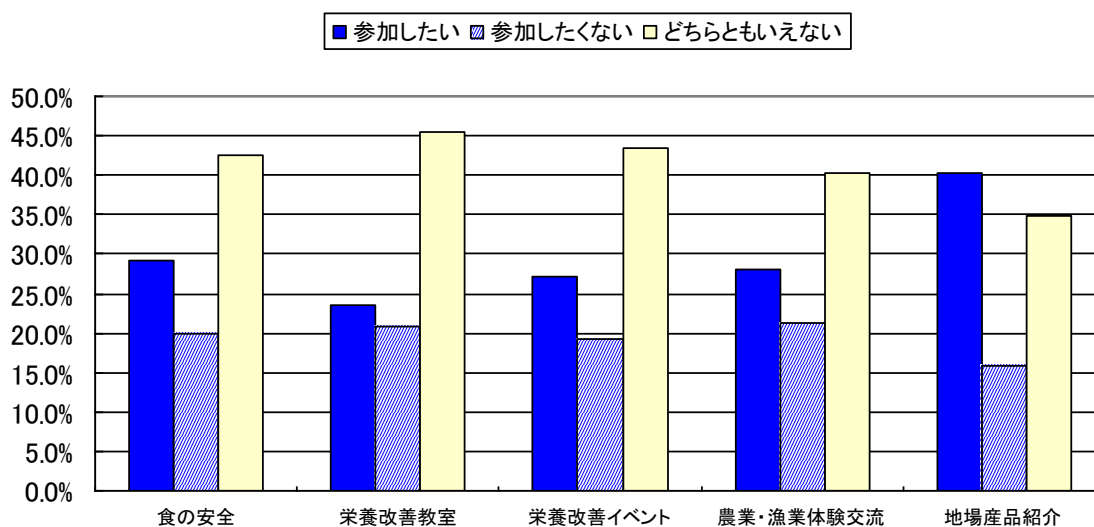
## ◆ 平塚市で行っている食育事業の認知状況

平塚市で行っている食育事業では、「湘南朝市」や「湘南ひらつかふれあいマーケット」の認知度が高いという結果になりました。次に、「村井弦斎まつり」・「健康フェスティバル」・「魚まつり」等が順に続きます。また、JAが主催する「JA湘南でてこいまつり」も認知度が高いという結果になりました。イベント以外では、各年代を参加対象とした事業が回答されています。（複数回答による結果）

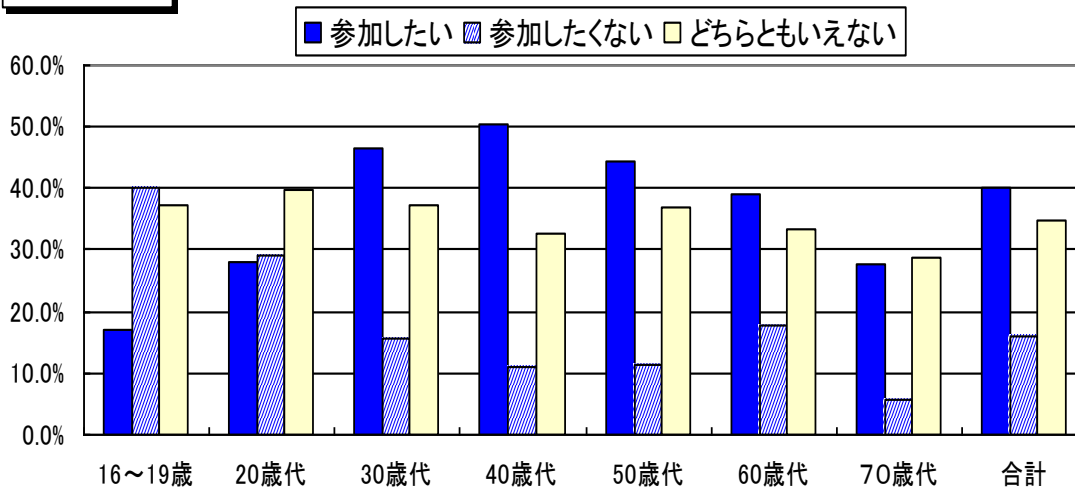


## ◆ 参加したい食育イベントの状況

イベントの参加希望としては、地場産品紹介への参加希望が多いという結果になり、地場産品への興味の高さがうかがえます。



### 地場産品紹介



## 第 3 章

### 計 画 の め ざ す も の

## 第3章 計画のめざすもの

### 1 基本理念

本市は神奈川県のはぼ中央、相模平野の南部に位置し、南は相模湾に面しています。気候が温暖で里山や田園、海、川の豊かな自然に恵まれた本市には、豊かな食の歴史と基盤があります。

そのように食環境に恵まれた本市では、「みんなではぐくもう！食育のまち ひらつかの未来」を基本理念に、食育の普及を目指します。

次世代を担う子どもたちが、食について楽しみ、感謝し、考える力を養うために、望ましい食への考え方や食の文化等を大人が伝えていく環境づくりを重点課題としています。

みんなではぐくもう！食育のまち ひらつかの未来

### 2 基本方針

次世代を担う子どもの健やかな成長や、よりよい食生活環境を継承することを目標に、行政機関や関連団体が連携・協力し、市民自らが食育を実践していくことを推進します。

#### ●家庭ではじめる食育

厚生労働省、文部科学省が進める「早寝早起き朝ごはん」を基本とした乳幼児期からの規則正しい食生活習慣の形成や、食を楽しみ、食べることを大切にする気持ちを育むための取組みを促進し、次世代に受け継がれる食育の推進に努めていきます。

#### ●体験を通じた食育

教育ファームを含む農業体験や料理体験を通じて、食べ物の生産現場を見て、料理をすることの楽しさや食事の大切さを学ぶとともに、食べ物に対する感謝の気持ちを体験し育てます。また、村井弦斎の唱えた食育の考えを継承し、食育関連行事への参加を促進します。

#### ●健康づくりのための食育

食事の基本であるバランスのとれた食事を実践するための食事バランスガイドの活用方法を、各種教室・講座等にて情報提供していきます。

#### ●人とのふれあいを通じた食育

行政間や団体間の連携を図り、互いの活動に積極的に参加・協力することにより、市民一人ひとりが主体となって食育の活動を推進していきます。

## 食育推進のイメージ



### 3 計画指標

計画指標の現状値は主に「平成19年度食育推進のための実態調査」の結果を用い、それ以外の調査結果・データ等を用いるものは指標解説中に\*を示します。計画指標の目標値は、現状値の10～15パーセント改善を基準に、計画期間の平成22年度から平成26年度までの5年間に実現可能な数値を達成目標として挙げています。

#### 【家庭ではじめる食育】

指 標	現 状 値	目 標 値
1 早寝早起き朝ごはんを実践する家庭の割合*	3歳 34.4%	50%
2 バランスのとれた朝食を食べる 子どもと大人の割合	0～5歳 44.8%	60%
	20歳代 40%	55%
	30歳代 35%	50%
	40歳代 45%	60%

#### 《指標解説》

- 1 \*平成17年度乳幼児栄養調査の「子どもの食事で気をつけていること」で『食事のリズム』と回答した割合は3歳児で34.4パーセントです。正しい生活習慣が基礎となり、子どもの健やかな成長発達や望ましい食習慣が確立されることから、厚生労働省・文部科学省が推進する[早寝・早起き・朝ごはん]の普及啓発に努め、規則正しい生活をおくる子どもを増やすことを目標とし設定しました。
- 2 「朝食にどのようなものを食べていますか」について、『主食・主菜・副菜の揃ったバランスのとれた食事をとっている』との回答が、0～5歳で44.8パーセントと半数以下であり、家庭における食習慣の乱れがうかがえます。子どもたちや、20～40歳代の子育てを担う世代を中心に、バランスのとれた朝食を毎日食べることの大切さを普及啓発することを充実させ、正しい食生活習慣を営むことの大切さを理解し、実践する市民を増やすことを目標とし設定しました。

## 【体験を通じた食育】

指 標		現 状 値	目 標 値
1 食に関する 体験活動・情報提供の場 の充実	小中学校*1	29校	全43校
	高校*2	2回	6回
	公民館*2	18公民館	全26公民館
	漁業・加工見学*2	1回	2回以上
	パンフレット作成	未実施	作成・普及
2 食に関する事業を知っている件数 一人当たり		2.3件	3件
3 食育を唱えた村井弦斎の認知率		29%	40%

### 《指標解説》

1 **\*1** 平成21年3月に市内小中学校を対象に行った「実態調査」による実施数

**\*2** 平成20年度の事業実績

学校主管食育事業のほか、思春期における健康教室、魚食普及などを市内小中学校や高校・公民館で実施しています。子どもたちの食に関する体験学習の場の充実や、保護者、地域住民への情報提供を促進することにより、規則正しい食生活の基盤の形成や、食べ物への感謝、食べることの大切さを理解実践する市民が増えることを目標とし設定しました。

2 本市では食に関する様々な事業やイベントを行っています。このような事業やイベントを通して実際に食に触れ合ってもらい、食について考える機会になることを目標として設定しました。(複数回答による件数)

3 本市にゆかりのある人物である村井弦斎は、小説『食道楽』の中で「小児には、徳育よりも、智育よりも食育が先。体育、徳育の根源も食育にある」と記し、食育の大切さを主張しました。村井弦斎の考えを、食体験によって広め、食育の普及につなげることを目標として設定しました。

## 【健康づくりのための食育】

指 標	現 状 値	目 標 値
1 平塚産食材を使った食事バランスガイドの普及	未実施	作成・普及
2 野菜を1日350g食べている人の割合*	20歳以上 45%	60%以上

### 《指標解説》

- 食事バランスガイドを『言葉も内容も知っている』と回答した割合は、16～19歳で42.9パーセントである一方、その他の年代では20パーセント前後でした。平塚産食材等、身近な食材を用いた料理を掲載した「平塚版食事バランスガイド」を作成し、ライフステージに応じた食事のとり方を普及啓発することで、健康を維持増進するための食事を理解する市民を増やすことを目標とし設定しました。
- \*平成20年度健康増進計画実態調査の結果から、野菜を望ましい量摂取する人の割合が少ない現状となっています。食事バランスガイドの普及やメタボリックシンドローム対策を充実することにより、野菜の適正な摂取（食事バランスガイドでは、野菜料理小鉢一皿分を70g程度とし、一日5皿の摂取を目標としています）を心がけ、健康づくりを実践する市民が増加することを目標とし設定しました。

## 【人とのふれあいを通じた食育】

指 標	現 状 値	目 標 値
1 食育ボランティアの人数の増加	289人*	320人以上
2 食育に関心をもっている人の割合	70.3%	90%以上

### 《指標解説》

- 地域に根ざした食育活動を展開する「平塚市食生活改善推進団体」の会員養成・育成事業を充実し、定期的な会員の増加を図ることで、多様な手による食育の普及が促進され、食育を理解する市民が増えることを目標とし設定しました。\*現状値は平成21年度会員数
- 食育への関心度について、『関心がある』『どちらかといえば関心がある』と回答した割合が70.3パーセントと、平成21年度国の割合72.2パーセントとほぼ同様の数値になっています。食育に関心をもち、市民自らによる食育推進運動が促進されることを目指し、国、県の目標値90パーセントと同様の目標を設定しました。

# 平塚市食育推進計画体系図

## 理念

みんなではぐくもう！食育のまち ひらつかの未来

## 基本方針

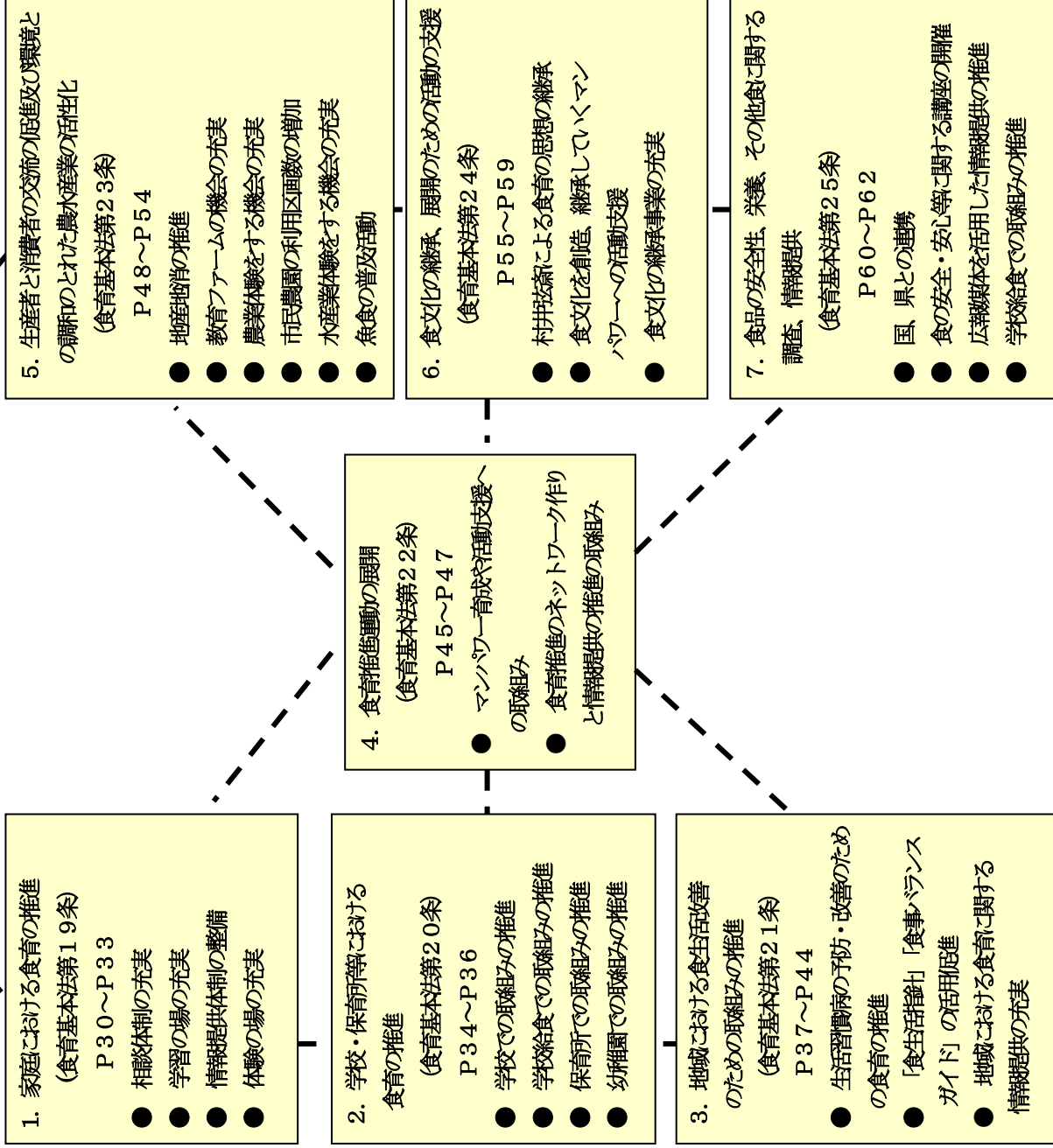
家庭ではじめる食育

体験を通じた食育

健康づくりのための食育

人とのふれあいを通じた食育

## 基本的施策と施策の展開



## 第 4 章

### 基本的施策

## 第4章 基本的施策

### 1. 家庭における食育の推進（食育基本法第19条）

#### 現況と課題

##### 【現況】

核家族化・少子化がすすみ、親となる人が実際に妊娠・出産するまで育児体験をすることなく、現実の育児をはじめることになり、経験不足から食の場面での育児不安を招いています。乳幼児期の育児不安について該当するものに、「食事について」「母乳、ミルクについて」といった栄養・食生活に関することが上位の項目に挙がっています。本市では乳幼児期から望ましい食習慣の形成を目指し、離乳食や幼児食の教室、相談事業を通じて家庭での食育への取組みを推進しています。また、妊娠、出産、育児に関する不安を軽減し、よりよい食生活を習慣化することを目的とした妊産婦教室や育児教室を開催し、夫婦や家族で参加しやすい環境づくりに努めています。そして、将来の妊娠、出産、子育てに向け、母性父性を育むことと同時に、健康で適正な体型への理解を深めることを目的とした思春期教室を実施しています。

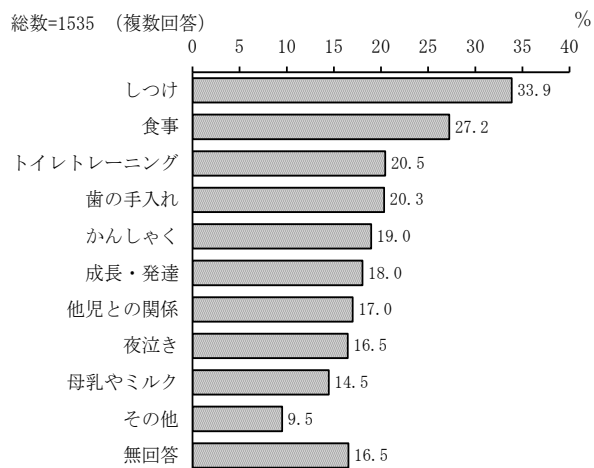
「平成19年度食育推進のための実態調査」において、朝食を食べている割合は0～5歳で87.9パーセントに対し、食べているものの内容では「主食・主菜・副菜の揃った食事」と回答する割合が44.8パーセントでした。この傾向は、「平塚市子どもの生活習慣病予防対策委員会」で実施している「5歳児実態調査」でも同様な結果が得られています。同調査の朝食の摂食状況に関連した生活状況として、就寝時間が10時を超えるとの回答が15パーセントを超へ、夕食後から就寝前までの飲食習慣が40パーセントを超えていることが挙げられます。これらの改善には、保護者を主体とした家庭での取組みが重要であることから、幼稚園や保育園と保健機関が連携し、巡回教室にて保護者向けの情報提供や、幼児向けの食育を実施しています。

##### 【課題】

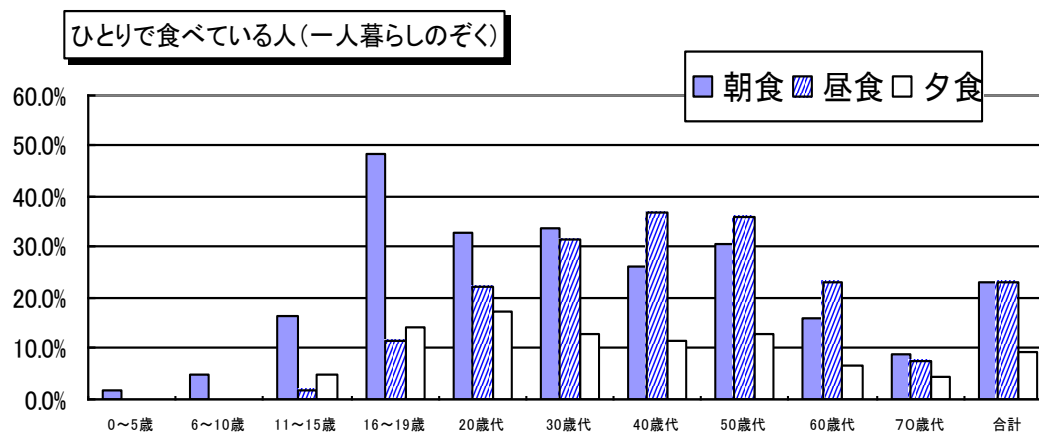
ライフスタイルの多様化や食をめぐる環境の変化の中で、規則正しい食生活リズムやバランスのとれた食事の大切さを知ることや、家族と食事を楽しむこと等、家庭での食育力を高める取組みが重要といえます。朝食の欠食が多い年代では孤食の傾向があることから、親世代へ情報提供や、バランスのよい朝食を簡単にとる方法等、生活の実情にあわせた事業展開が必要です。「早寝早起き朝ごはん」を基本とした食育の実践が子どもの健やかな成長につながることから、家庭をとりまく地域全体が連携をとり、日常の生活に根ざした場で、情報が提供される体制をつくる等の事業展開が求められます。

## ○育児で困ったこと

育児の中で困ったことはありますか。(あてはまるものすべてに○をつけてください)



「H20次世代育成支援計画アンケート」から



「平成19年度食育推進のための実態調査」から

## 取組みの方向

- 妊娠中や子育てにおける食生活の不安を減少する
- 家庭で食育を実践する方法を学ぶ場を充実させる
- 「早寝・早起き・朝ごはん」の取組みを推進する

## 主な取り組みと今後の展開

### 相談体制の充実

育児における食生活面の不安の解消や安心の提供を目的とした助言・指導を行います。現在実施している相談体制に加え、地域等で実施する教室の場での相談を実施していきます。また、就労者への情報提供や相談体制の充実に努めます。

#### 現在実施している事業

##### 【健康課】

- ・妊婦歯科健康診査（モデル事業）
- ・乳幼児健康診査（4か月児・8～10か月児・1歳6か月児・3歳児）
- ・2歳児歯科健康診査
- ・育児相談（来所・インターネット離乳食相談・電話・訪問）

【こども家庭課】・子ども総合相談・子育て支援事業

#### 充実を図る事業【健康課】【産業振興課】

- ・地域離乳食相談
- ・就労者への食育相談等情報提供

### 学習の場の充実

妊産婦やその家族、乳幼児の保護者等に対して食生活に関する正しい知識を普及し、育児不安の解消や積極的な健康づくりを図るため、各教室や講座を開催します。また、平塚市保健センターでの教室に参加しにくい地域を主とした地域開催の教室を充実させていきます。

#### 現在実施している事業

##### 【健康課】

- ・新婚教室事業
- ・母親父親教室
- ・母乳育児教室
- ・プレパパママクッキング
- ・父親のための育児教室事業
- ・離乳食教室

（4コース①5～6か月児②7～8か月児③9～12か月児④13～18か月児対象）

- ・ダイジェスト版離乳食教室（5～18か月児対象 土曜日開催）
- ・出張ダイジェスト版離乳食教室（5～18か月児対象 4地区開催）
- ・幼児教室
- ・思春期対策事業
- ・祖父母のための食育教室

【健康課・学務課】・子どもの生活習慣病予防事業

#### 充実を図る事業【健康課】

- ・出張ダイジェスト版離乳食教室（拡充）



### 情報提供体制の整備

地域で活動する育児サークル等の団体の希望により食育教室を開催します。  
また、教室内容についてリストをつくり、食育教室を多様な場で開催していきます。

#### 現在実施している事業【健康課】

- ・ 地域依頼食育教室の開催

#### 充実を図る事業【健康課】

- ・ 出張食育健康づくり教室リストの作成・普及啓発



### 体験の場の充実

子どもが食について関心をもち、親や地域の人とふれあいながら食育を実践していく力を育てる場をつくります。

#### 現在実施している事業

- ・ 中学生向け食育事業

(ヘルスポーター21 事業 P46 掲載)

【食生活改善推進団体・健康課】

#### 充実を図る事業【健康課】

- ・ 早寝早起き朝ごはん推進事業



### みんなの取組み

- 早寝早起きの規則正しい生活を心がける
- バランスのとれた朝ごはんて一日をスタートする
- 食生活について家族で会話をする機会を増やす

## 2. 学校・保育所等における食育の推進（食育基本法第20条）

### 現況と課題

#### 【現況】

子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。

家族構成では核家族化が進み、その影響が、孤食や朝食の欠食、栄養の偏りや不規則な生活に及び、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩せといった問題を生じています。

保育所及び幼稚園では、生活習慣や健康の基礎ができる乳幼児が、1日の大半を過ごす場所として食への取組みは大変重要であると考えています。集団生活を通して、食の大切さ、楽しみ、マナー、感謝の気持ち等を育てており、食への関心が芽生えてきています。

学校における食育の推進について、各校の意識は高まってきていますが、市内全小・中学校が栄養教諭等の専門性をいかせる状況にありません。また、年一回健康課と連携して開催している健康教室の参加者が少ない現状があります。

#### 【課題】

乳幼児が、集団生活の中で、楽しい食体験から、食への関心をより広げる取組みが求められています。

学校では、児童・生徒がよりよい食生活を心がけ、心身ともに健康な生活づくりに取組めるよう、各学校が教育活動全体を通し計画的に食育を推進していくことが求められています。また、各校への支援体制の整備や、健康教室への参加呼びかけ等が課題となっています。

### 取組みの方向

- 豊かな食体験を通じて食に興味を持つ心を育てる
- 食に関する指導の推進
- 食の大切さに対する意識の向上
- 健康教室への参加者の増加

## 主な取組みと今後の展開

### 学校での取組みの推進

#### ■ 食に関する学習・指導【小学校・中学校】

児童・生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるよう、小学校では、教科や特別活動、総合的な学習の時間等と関連させながら、給食の時間を中心に、食に関する指導を行っていきます。その際、栄養教諭等の専門性をいかすなど、学級担任と教職員間の連携に努めていきます。

中学校では、教科担任や栄養教諭等との連携に努める中で、教科や特別活動、総合的な学習の時間等を通して、食に関する指導を行っており、今後も食育に関する取組みを推進していきます。

また、学校での取組みについて、家庭や地域へ発信していくことで、家庭や地域との協力・連携に努めていきます。

#### ■ 健康教室【学務課・健康課】

小学校4年生の肥満傾向の児童と保護者を対象に健康教室を開催し、3日分の食物摂取状況をもとに栄養相談を行っていきます。相談が必要と判断された児童の参加者の増加に向けた取組みを推進し、健康に関する支援をしていきます。

### 学校給食での取組みの推進

#### ■ 学校給食地場産野菜使用推進事業【学校給食課】

地域で生産された新鮮な農産物を食べることで、農業や農産物への理解を深めることを目的に行っています。今後も引き続き、安心して安全な地場産野菜をできるだけ使用し、献立表に野菜品目を記載するなどPRに努めていきます。

#### ■ 食に関する指導【学校給食課】

児童が生涯にわたっていきいきとした生活がおくれるよう、食事のマナーやバランスのとれた食事をするための栄養の話をしています。今後もこの取組みを継続し、子どもたちに食事の大切さを教えていきます。

#### ■ ふれあい給食事業【学校給食課】

野菜を生産する地元農家の方を学校に招待し、一緒に給食を食べ、生産に関する話を聴く等、生産者とのコミュニケーションを図っています。今後もこの取組みを充実させ、子どもたちに食べ物を大切にする心を育てていきます。

## 保育所での取組みの推進

### ■ 食育に関する指導【保育所】

0歳から小学校入学までの発育発達過程に応じた食育の進め方、及び指導を行っています。保育士・調理師・栄養士が共通認識を持ち連携を更に深めていきます。

### ■ 給食試食会【保育所】

園児の保護者を保育所に招き、給食の試食や栄養士の講話等を行っています。今後も栄養士を中心に、「五感を育む」食育の実践をしていきます。

### ■ 開放保育【保育所】

子育て家庭に対しては、開放保育等の場において今後も情報提供を行っています。

(献立表・給食だよりの配布・食育講座の開催・サンプルケースによる展示・試食の提供等)

### 【魚をさわってみて・・・】



### 【バイキング…食べられる分を】



## 幼稚園での取組みの推進

### ■ 食育に関する指導【幼稚園】

幼児の自ら進んで食べようとする気持ちが育つように、食べ物への興味や関心を高める活動を大切にしながら保育を展開していきます。

## みんなの取組み

- 保育所、幼稚園、学校での食育の取組みを伝える
- 豊かな食体験学習の内容を、家庭でも継続する
- 給食の話を子どもたちとする

### 3. 地域における食生活改善のための取組みの推進

(食育基本法第21条)

#### 現況と課題

##### 【現況】

生涯を通じて健康な生活をおくるためには、それぞれの年代に応じた望ましい食習慣を身につけ、生活習慣の改善を図ることが必要です。

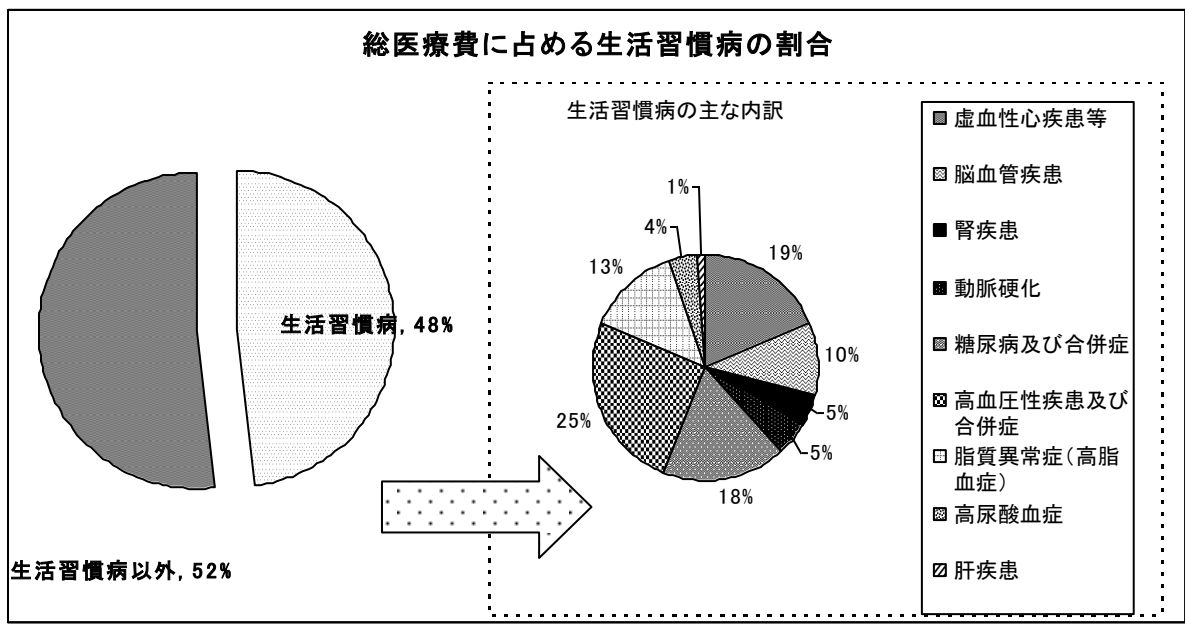
本市の生活習慣病の状況は、高血圧性疾患及び合併症、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病及び合併症が高い割合を占めており、早期予防としてのメタボリックシンドローム対策が重要な課題です。食生活状況の現状としては、平成15年、18年度に実施した「食品摂取頻度・摂取量調査」から、本市の傾向として、摂取エネルギー構成中の脂質過剰や、塩分の過剰摂取がみられ、生活習慣病への影響がうかがえます。「平成19年度食育推進のための実態調査」では、「メタボリックシンドロームについて言葉も内容も知っている」との回答が74.5パーセントと神奈川県の結果よりも低い結果となっています。生活習慣病を予防するための基本的な食事の組み合わせを普及啓発するための「食事バランスガイド」について、「言葉も内容も知っている」と回答した人は30歳代で27.5パーセント、40歳代で31.5パーセントと低い結果となっています。

地域における食育の取組みは、地域の特色をいかした様々な取組みが実施されています。公民館では、自主事業や家庭教育学級等における講座の中で、食育の大切さや食の安全についても触れる等、地域住民への情報提供や普及啓発を行っています。また、本市からの委託事業として、平塚市食生活改善推進団体が「生活習慣病予防料理教室」を地域公民館にて実施しています。

##### 【課題】

医療機関や地域関連機関、団体との連携を図りメタボリックシンドロームの予防・改善の必要性を広く普及啓発していくことが重要です。具体的な予防改善方法を、働き盛り世代に効果的に普及するための現状把握と情報提供の方法を検討することが必要です。

また、生活に密着した地域公民館やイベント等を利用し、市民自らが食育について学ぶことのできる場の充実を図る必要があります。



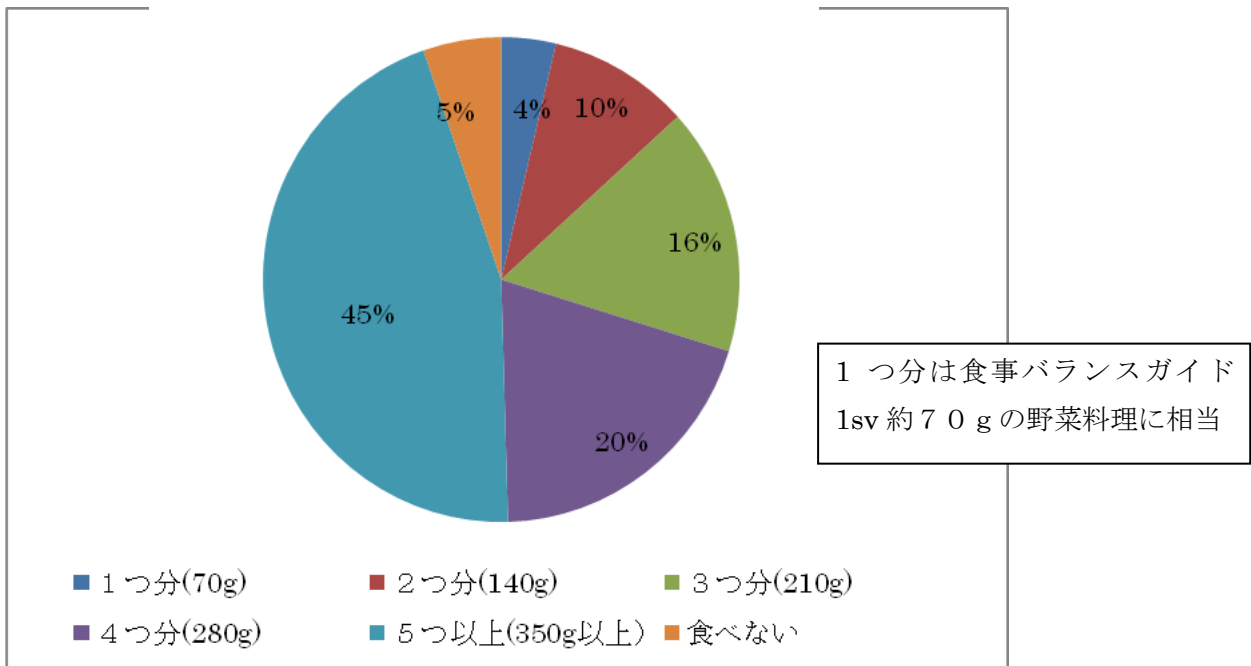
※ 総医療費…レセプト全体にみる医療費の合計。

※ 生活習慣病合計…生活習慣病の疾患を1つでも含むレセプトの合計。

※ 生活習慣病以外…生活習慣病の疾患を含まないレセプトの合計。

「平塚市国民健康保険 特定健康診査・特定保健指導実施計画」平成20年3月発行から

### 一日に摂取する野菜料理の数



「平成20年度 健康増進計画実態調査」から

平成15年度食品摂取量季節変動調査

# 平塚市の栄養調査の結果

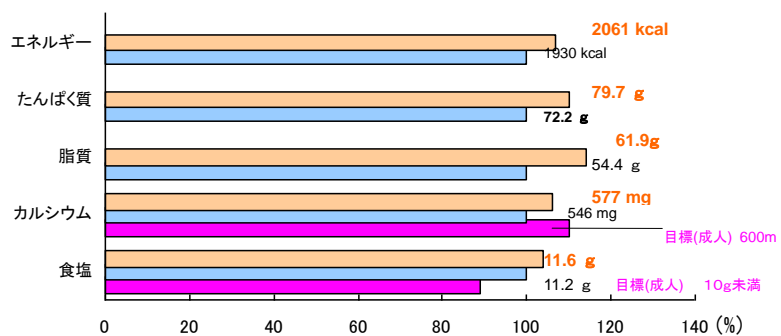
平塚市の平成15年度食品摂取量季節変動調査(平成15年8月～平成16年6月)は  
184世帯(のべ528名)の方にご協力いただきました。

## 1. 栄養素等摂取量について

■ 平塚市(男女計) ■ 国民栄養調査(H14)(男女計)

国民栄養調査と比較し、

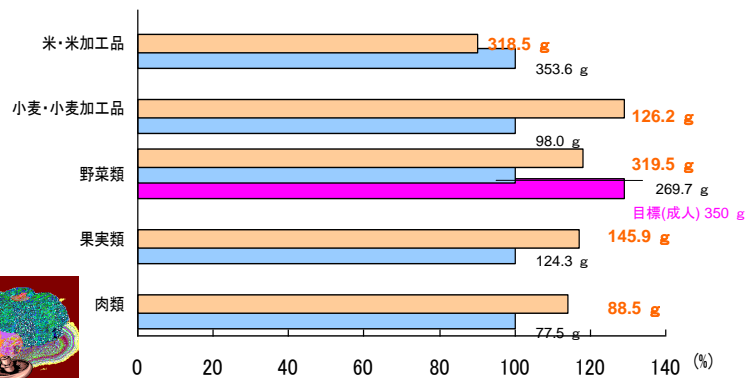
- エネルギーが多い
- たんぱく質が多い
- 脂質が多い
- カルシウムが多い



## 2. 食品群別摂取量について

国民栄養調査と比較し、

- 米・米加工品が少なく、
- 小麦・加工品が多い
- 野菜・果実類が多い
- 肉類が多い



「平成15年度平塚市食品摂取量季節変動調査」から

## 取組みの方向

- 生活習慣病の予防・改善のための食育の推進
- 食生活指針や食事バランスガイドの活用促進
- 地域における食育に関する情報提供の充実

## 主な取り組みと今後の展開

### 生活習慣病の予防・改善のための食育の推進

疾病別の生活習慣病予防のほか、食生活改善の楽しさに気づくための各種教室を開催し、普及啓発を図ります。また、就労している人が参加しやすい教室の開催を検討し、実施していきます。

#### 現在実施している事業【健康課】

- ・ 疾病別生活習慣病予防教室  
(糖尿病・脂質異常症・骨粗しょう症・メタボリックシンドローム)
- ・ ライフステージ別生活習慣病予防  
(女性の健康教室・男性の健康教室)
- ・ 腹囲マイナス運動教室
- ・ 地域生活習慣病予防教室 (平塚市食生活改善推進団体委託事業)

#### 充実を図る事業【健康課】

- ・ ホームページを利用した生活習慣病予防情報の普及啓発
- ・ 出張食育健康づくり教室リストの作成・普及啓発



## 「食生活指針」「食事バランスガイド」の活用促進

市民一人ひとりがよりよい食生活を営むためのポイントを理解し、健康増進に取り組むことや、食料の安定供給の確保等を目的とした「食生活指針」「食事バランスガイド」を普及啓発し、活用を促進します。

### 現在実施している事業

- ・各種事業での活用【健康課】【農水産課】【指導室】
- ・平塚版食事バランスガイドの作成【平塚市食生活改善推進団体】

### 充実を図る事業

- ・平塚版食事バランスガイドの普及啓発  
【健康課・平塚市食生活改善推進団体】

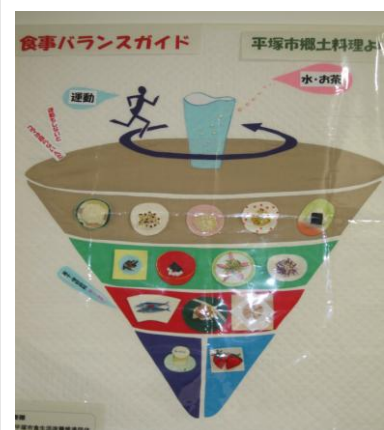
## 「食生活指針」「食事バランスガイド」とは

「食生活指針」は、近年の食生活の多様化により生じた栄養バランスの偏りや食料資源の浪費、食料の海外への依存等の問題が顕在化していることから、平成12年3月に当時の厚生省（現厚生労働省）、農林水産省、文部省（現文部科学省）が共同して策定した10項目からなる食生活を営むための基本指針です。

この「食生活指針」を具体的な行動に結びつけるために平成17年6月に厚生労働省と農林水産省により公表されたのが「食事バランスガイド」であり、食事の望ましい組み合わせやおおよその量をイラストでわかりやすく示しています。「食生活指針」「食事バランスガイド」の普及活用の促進をすすめ、栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践を国民運動として展開していくことが必要とされています。

国が公表している『食事バランスガイド』に加え、平塚地場産食材を使った料理を掲載した「**平塚版食事バランスガイド**」を普及していきます。

### 平塚版食事バランスガイド



製作：平塚市食生活改善推進団体



## ～食生活指針～

<p><b>① 食事を楽しみましょう。</b></p> <p>○心とからだにおいしい食事を、味わって食べましょう。</p> <p>○毎日の食事で、健康寿命をのばしましょう。</p> <p>○家族の団らんや人との交流を大切に、また、食事づくりに参加しましょう。</p>	<p><b>② 1日の食事のリズムから、健やかな生活リズムを。</b></p> <p>○朝食で、いきいきとした1日を始めましょう。</p> <p>○夜食や間食はとりすぎないようにしましょう。</p> <p>○飲酒はほどほどにしましょう。</p>
<p><b>③ 主食、主菜、副菜を基本に食事のバランスを。</b></p> <p>○多様な食品を組み合わせてみましょう。</p> <p>○調理方法が偏らないようにしましょう。</p> <p>○手作りや外食や加工品・調理食品を上手に組み合わせましょう。</p>	<p><b>④ ごはんなどの穀類をしっかりと。</b></p> <p>○穀類を毎食とって、糖質からのエネルギー摂取を適正に保ちましょう。</p> <p>○日本の気候・風土に適している米などの穀類を利用しましょう。</p>
<p><b>⑤ 野菜・果物、牛乳・乳製品、豆類、魚なども組み合わせて。</b></p> <p>○たっぷり野菜と毎日の果物で、ビタミン、ミネラル、食物繊維をとりましょう。</p> <p>○牛乳・乳製品、緑黄色野菜、豆類、小魚などで、カルシウムを十分にとりましょう。</p>	<p><b>⑥ 食塩や脂肪を控えめに。</b></p> <p>○塩辛い食品を控えめに、食塩は1日10g未満にしましょう。（*注）</p> <p>○脂肪のとりすぎをやめ、動物、植物、魚由来の脂肪をバランスよくとりましょう。</p> <p>○栄養成分表示を見て、食品や外食を選ぶ習慣を身につけましょう。</p>
<p><b>⑦ 適正体重を知り、日々の活動に見合った食事を。</b></p> <p>○太ってきたかなと感じたら、体重を量りましょう。</p> <p>○普段から意識して身体を動かすようにしましょう。</p> <p>○美しさは健康から。無理な減量はやめましょう。</p> <p>○しっかりかんで、ゆっくり食べましょう。</p>	<p><b>⑧ 食文化や地域の産物を活かし、ときには新しい料理も。</b></p> <p>○地域の産物や旬の素材を使うとともに、行事食を取り入れながら、自然の恵みや四季の変化を楽しみましょう。</p> <p>○食文化を大切に、日々の食生活に活かしましょう。</p> <p>○食材に関する知識や料理技術を身につけましょう。</p> <p>○ときには新しい料理を作ってみましょう。</p>
<p><b>⑨ 調理や保存を上手にして無駄や廃棄を少なく。</b></p> <p>○買いすぎ、作りすぎに注意して、食べ残しのない適量心がけましょう。</p> <p>○賞味期限や消費期限を考えて利用しましょう。</p> <p>○定期的に冷蔵庫の中身や家庭内の食材を点検し、献立を工夫して食べましょう。</p>	<p><b>⑩ 自分の食生活を見直してみよう。</b></p> <p>○自分の健康目標を作り、食生活を点検する習慣を持ちましょう。</p> <p>○家族や仲間と食生活を考えたり、話し合ったりしてみましょう。</p> <p>○学校や家庭で食生活の正しい理解や望ましい習慣を身につけましょう。</p> <p>○子どものころから食生活を大切にしましょう。</p>

平成12年3月厚生省（現厚生労働省）・農林水産省・文部省（現文部科学省） 決定

\*注：日本人の食事摂取基準2005年度版（厚生労働省策定）での塩分目標量は男性10g未満・女性8g未満。

## 地域における食育に関する情報提供の充実

地域の学習課題としての重要性や住民ニーズを考慮しながら、食に関する事業を計画するほか、公民館だより等を通じての食に関する情報提供の可能性等も検討していきます。

### 現在実施している事業

- ・ 公民館自主事業での食育推進 【社会教育課】  
(魚のさばき方教室、家庭教育学級での料理教室等)
- ・ 消費生活展 【市民情報・相談課】
- ・ 健康づくり情報の発信事業 【健康課】  
ラジオ、ケーブルテレビ、自治会回覧紙、広報紙、パンフレット

### 充実を図る事業

- ・ 出張食育健康づくり教室リストの作成・普及啓発 【健康課】

## 事例

### 消費生活展

実物やパネルをわかりやすく展示し、消費者をめぐる様々な問題についての普及啓発を図るイベントです。

消費者団体の協力の下、食生活をはじめとした各種展示や体験コーナー等を設置するとともに、スタンプラリーを実施し、楽しみながら理解を深めてもらうことを目的としています。



## みんなの取組み

- 食生活指針や食事バランスガイドを知り、食生活に活用する
- 今の食生活に野菜料理を一品増やす
- 健康づくり教室に参加する

## 4. 食育推進運動の展開（食育基本法第22条）

### 現況と課題

#### 【現況】

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンとした、食育推進活動を全国に先がけて実践してきた平塚市食生活改善推進団体は、地域に根ざした多様な食育実践活動を展開しています。他にも、「平塚の食環境をよくしよう」と積極的に活動している市民が多く存在していますが、活動内容等の調査は未実施です。

食育の推進を多くの市民に知らせることを含めたイベントは、行政主催の「健康フェスティバル」「歯の健康フェスタ」等のほか、市民のマンパワーが主体となって実施されている、「村井弦斎まつり」「JA湘南でてこいまつり」「いいもんひらつか魅つけ市」「湘南ヤーコンフェア」等があります。

#### 【課題】

多くの機関、団体において食育推進活動が展開されていますが、多岐にわたる取組みを情報交換する場がないため、相互に連携する体制が整備されていません。食育を推進する取組みを相互に理解しあい、同じ食育目標のもと、連動した食育推進活動を展開していくことが、食育のまちづくりの定着につながります。そのため、食育推進に関連する団体やボランティア、教育機関等のネットワークを構築していく必要性があります。

食育を推進するマンパワーの連携が図られ、保育所や学校等で実践されている総合学習等への関わりを行うことにより、子ども自身が地域の人々とふれあい、自分の食生活に多くの人の関わりがあることを理解していきます。

また、食育推進計画の目標達成には、現在実施されているそれぞれの活動だけではなく、本市の基本理念を普及啓発するための媒体作成や定期的なイベント等により継続した普及啓発が必要です。

### 取組みの方向

- 食育の日や食育月間等での定期的なイベント開催等普及啓発の充実
- 食育を推進するマンパワーのネットワーク化と協力協働体制の構築
- 食生活改善推進団体等食育ボランティアの活動支援
- 市民による食育の取組みの推進

## 主な取り組みと今後の展開

### マンパワー育成や活動支援への取り組み

#### ■ 食生活改善推進員の養成・育成【健康課】【平塚市食生活改善推進団体】

食生活改善推進員は「食育アドバイザー」として、子どもから高齢者まで健全な食生活を実践することのできる健康で質の高い社会を目指し、地域に根ざした食育活動をすすめています。この活動を支援するため、本市では、食生活改善や健康づくりに関する基礎的知識を習得するための「養成講座」、活動に必要な最新の栄養情報を提供するための「育成事業」を実施しています。

#### ■ 食育に関するボランティアへの活動支援【平塚市食育推進委員会】

「平塚の食をよくしたい」「安心した食生活をおくりたい」とは全ての市民の願いであり、多くの食育の担い手による取り組みが本市の食育を推進しています。

今後も効果的な食育の実践がされるようこの活動の支援をしていきます。

### 事例

**食生活改善推進団体による食育活動** ～食べることの大切さをまわりの人に伝えよう～

#### 中学生も食の伝達者に！ヘルスサポーター21事業

全国食生活改善推進員団体連絡協議会の食育事業の一環として国の掲げる健康づくり運動「健康日本21」の目標達成を目指し、賛同者を増やす取り組みです。本市では未来を担う世代として市内中学校協力のもと本事業を実施しています。多様化した食生活の中での自分の体づくりや手作りの食事の大切さを伝えています。この講座を受講した生徒は「ヘルスサポーター」として認定され、家族や地域社会で食の大切さを伝えることを役割とされています。



**湘南ヤーコン応援団による食育活動** ～健康野菜・ヤーコンの普及と食育を～

#### 湘南ヤーコンフェア

「ヤーコンを平塚の名産品に！」と平塚農業高校が取り組む活動が共感を呼び、神奈川県、平塚市の行政・団体・平塚市内企業の支援の輪が広がり発足したのが「湘南ヤーコン応援団」です。毎年開催される『湘南ヤーコンフェア』では、平塚農業高校が開発した「ヤーコンジャム」や、同高校と市内商工団体と共同開発で市の推奨品にも認定された、「ヤーコン焼酎」・「和菓子ヤーコン」等を買求める人々に賑わいます。栽培や料理方法等、幅広いヤーコンの活用情報が得られると好評です。

## 食育推進のネットワーク作りと情報提供の推進の取組み

### ■ 食育普及月間や食育の日の普及活動

【平塚市食生活改善推進団体】【平塚市食育推進委員会】  
国民運動として食育を推進していくために、毎年6月の「食育月間」、毎月19日の「食育の日」にあわせた食育普及を実践している食生活改善推進団体の活動を支援し、多様な場での普及啓発を行っていきます。



### ■ 多様な食育活動の情報の共有化と食育情報提供システムの構築

【平塚市食育推進委員会】

地域で多様な食育活動を実施している団体や活動状況を把握し、行政と市民の協働のもと「食育」を推進していくためのシステムを構築します。食育活動が多くの手で実践されることを目標とします。

### ■ 健康づくりイベントの実施

展示や体験を通じて、健康や食に対する理解を促進するための催しの充実を図ります。今後はイベントの実施や、パンフレット等での情報提供を充実させ、多くの市民が健康や食にふれる環境づくりを進めます。

## みんなの取組み

- 一人ひとりが食育を実践する
- 食育に関する催しに参加する
- 食育の大切さを子どもたちに伝える

## 5. 生産者と消費者の交流の促進及び環境との調和のとれた

### 農水産業の活性化（食育基本法第23条）

#### 現況と課題

##### 【現況】

本市は、県内有数の農業地域であり、特に水稻・バラ・きゅうりの生産量は県下1位となっています。また、漁港を持つことから水産物にも恵まれています。しかし、こうした有力な地場産品は市場を経由し市外で消費されることも多く、平塚市でどのような農産物が生産されているかといったことが市民によく知られていない現状があります。

また、近年著しい食の安全・安心への関心の高まりを受け、単に地場産品が市内で認知され、消費されるにとどまらず、農水産物そのものや農水産業へのより一層の理解を促進していくことがこれからの役割として求められています。

##### 【課題】

地産地消の推進のため、地場産品の市民への周知を図る取組みが求められています。地場産品を入手しやすい環境や、現在実施しているイベントの普及が必要です。

農水産業体験の実施や市民農園の推進により、生産者と消費者の交流の場を設け、農水産業への理解の促進につながる機会を増やしていくことが必要です。

#### 取組みの方向

- 地産地消の推進
- 農水産業体験を通じた食育の推進
- 積極的な情報の発信やイベントの開催による農水産業への理解の促進
- 子どもたちを中心とした魚食の普及・促進

## 主な取組みと今後の展開

### 地産地消の推進 【農水産課】【産業振興課】【学校給食課】【JA】等

地産地消とは「その土地で採れたものをその土地で消費する」という意味です。近年、消費者の農水産物に対する安全・安心志向の高まりや、生産者の販売方法の多様化が進む中で、消費者と生産者を結び付ける「地産地消」への期待が高まっています。本市においても地場産農水産物のPRに努め、地産地消の取組みを積極的に推進していきます。

### ～地産地消の利点～

#### ◆ 新鮮な食材が手に入る

畑から家庭までの距離が近いので、新鮮な農水産物が手に入ります。

#### ◆ 生産者の顔が見える

多くの場合、直売所等で生産者と直接会話をすることができ、生産者との信頼関係が生まれます。

#### ◆ 環境に優しい

食料を運ぶための燃料消費が減るため、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量を減らすことができます。

### 事例

#### 平塚市内の直売所

～農水産課ホームページ～

紹介店舗数：31店舗

<内訳>

JA直売所：11店舗

個人直売所：20店舗

野菜販売：17

果物販売：20

花販売：19

(平成21年4月現在)

#### 地場産品PRイベント

◆ JA湘南でてこいまつり（年1回）

◆ 湘南朝市（年1回）

◆ 湘南ひらつかふれあいマーケット（毎月1回）

◆ 魚まつり朝市（年1回）

◆ 魚さばき方教室（年約10回）

湘南ひらつかふれあいマーケット



#### ふれあい給食事業

野菜を生産する地元農家の方を学校に招待し、一緒に給食を食べ、生産に関する話を聴く等、生産者とのコミュニケーションを図っています。

## 教育ファームの機会の充実

### ■ 教育ファーム

年々都市化が進むなかで、市民と農畜産業・漁業との垣根が高くなってきています。そのような中で単に店頭で食べ物を買うだけではなく、普段自分が口に入れる食べ物がどのような環境でどのような育て方をされて流通しているのかを、自ら体験し目で確認をすることによって、食や自然に対する関心が高まり、理解が深まります。

本市では、教育ファーム等の農業体験事業をはじめ、様々な事業を、農水産業関係団体、農水産業生産者、学校、地域の方々、行政が連携しながら農・漁業体験ができる機会を拡大し、食や自然への理解を深め、食育の推進に努めます。

### 事例

#### ひらつか花アグリ 米づくり体験隊（金田地区専業農家組織「ハツパ会」）

消費者自らが米づくりに参加することで、農業への理解を深め、本市の米の魅力を再発見します。地元の専業農家組織が講師になり、家族で田植え、草とり、ひえとり、稲刈りと体験し、最後に玄米になるまでの工程を見学した後、米を受け取ります。

現在は実証実験ですが、将来的には本格実施とし、食育の普及を進めるとともに、農業者の収入増につなげます。

#### サポートファーマー育成事業（農水産課）

農業者以外の市民を対象に農業の実習や講義を行い、農作業の手伝いや遊休農地の耕作等の援農活動を行うサポートファーマーを育成します。農業生産者や農業関係団体職員が講師となり、1年をかけて共同で農作物の植付け、除草、施肥、収穫などの農作業を行ないます。

卒業生をJA湘南のサポートバンクへ登録を進めます。

#### 親子ふれあい体験（湘南農業経営士会主催）

次世代を担う子どもとその家族を対象に食農教育として、管内の圃場を借り、田植えから稲刈りまで、米のできるまでの実際を体験します。また、精米工場や農業技術センターの試験圃場等を見学したり、農家女性が経営する食堂で地元農産物を使った料理を食べます。

#### 田植え体験（JA湘南等主催又は学校行事として）

食農教育の一環として、田植え体験を行う学校があります。いずれも地元生産者の指導の下、泥だらけになって苗を植えます。また、JA湘南からバケツ苗セットが各学校に配布され、児童が水の管理や鳥・虫の食害に気をつけながら、秋の実りを待ちます。

#### ヒラメ稚魚放流、親子交流海体験（教育ファームへの展開を目指していきます）

児童・生徒等を対象に、遊漁船に乗船して沖に張られた定置網や潮目の様子を観察します。また、ヒラメ等の稚魚放流を体験したり、しらす加工場や魚市場を見学します。

## 教育ファームの協力・連携

### 地区農業者組織

消費者に農業を理解し、楽しんでもらおうと米づくり体験を行います。

### 農業生産者、農業関係団体

農業関係団体が取組みの実施や調整をし、農業生産者が協力します。

学校 取組みの実施や調整をします。

### 漁業者、漁業関係団体

漁業関係団体が取組みの実施や調整をし、漁業者が協力します。

行政 取組みの実施や調整、情報発信を行ないます。

## \*教育ファームとは

自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への理解を深めること等を目的として、農林漁業者などが一連の農作物等の体験の機会を提供する取組みをいいます。

なお、一連の農作物等の体験とは、農林漁業者など実際に業を営んでいる者による指導を受けて、同一人物が同一作物について2つ以上の作業を年間2日以上の間を掛けて行うものをいいます。

## 農業体験をする機会の充実

### ■ 親子収穫体験会【農水産課】

実際の収穫を体験してもらい、農業と農作物への理解と感謝の気持ちを育むことを目的としています。生産現場（ハウス内）においては春はトマト、秋はきゅうりのもぎ取りを体験後、昼食に平塚産の米や野菜を使ったメニューを用意し、地場産農産物のPRに努めていきます。

#### ◆ トマト収穫体験



#### ◆ きゅうり収穫体験



## 市民農園の利用区画数の増加

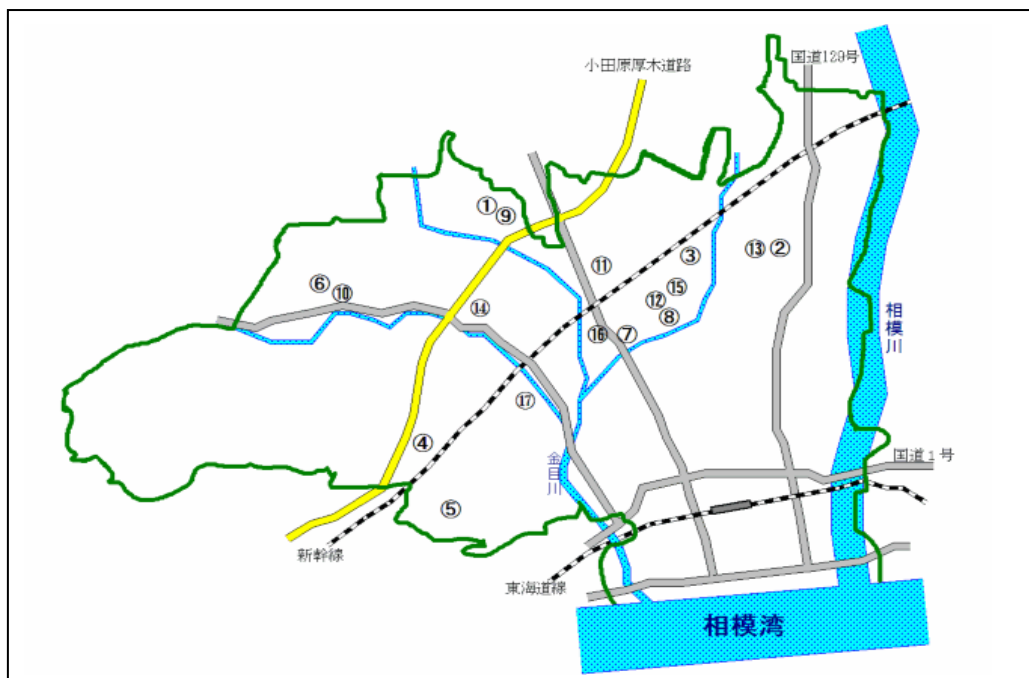
### ■ 市民農園【農水産課】

自然志向の高まりを背景に、自然や土とのふれあいを求める人々が増えています。食の安全・安心への関心や、農作業を通じての心身の休養効果や学習効果等、多様な理由から、気軽に農作業にたずさわることができる場が求められています。

こうした要望に応えるため、本市では平成7年度から市民農園の開設支援を開始し、現在（平成21年3月）では市内に17園（825区画）が開設されています。今後も市民の余暇が増大し多様化する中で、農業との交流を深め、農業を理解してもらうため、積極的な整備を継続します。

また、金田地区に建設中の「ひらつか花アグリ」の開園を前に、周辺には大型市民農園の開設も予定しています。

～市民農園マップ～



- |             |            |              |
|-------------|------------|--------------|
| ①岡崎土部市民農園第1 | ②田村市民農園    | ③豊田市民農園      |
| ④根坂間市民農園    | ⑤万田市民農園    | ⑥北金目市民農園第1   |
| ⑦南豊田市民農園    | ⑧南豊田古川市民農園 | ⑨岡崎土部市民農園第2  |
| ⑩北金目市民農園第2  | ⑪北豊田市民農園   | ⑫南豊田古川市民農園第2 |
| ⑬神田地区市民農園第2 | ⑭寺田縄柳町市民農園 | ⑮東豊田市民農園     |
| ⑯南豊田犬坊市民農園  | ⑰まとい市民農園   |              |

## 水産業体験をする機会の充実

### ■ 体験乗船【農水産課】

小学生を対象に、遊漁船に乗って相模湾内を遊覧してもらいます。地元の漁業者が働く身近な海の自然環境について学び、水産業についての親しみと理解を深めてもらうことを目的としています。今後も水産業への理解の推進のために継続して取り組んでいきます。

## 魚食の普及活動

### ■ 魚食普及事業【農水産課】

地場産農産物と同様、平塚港に水揚げされた水産物についても、購入の機会を増やし、水産業とふれあい、消費の推進を図ることが求められます。

そのため、以下のような取組みを行っています。

### 事例

- ◆魚まつり朝市（鮮魚・水産加工品の販売イベント、年1回）
- ◆湘南朝市（鮮魚・水産加工品の販売イベント、年1回）
- ◆湘南ひらつかふれあいマーケット（鮮魚・水産加工品の販売イベント、毎月1回）
- ◆公民館等を利用した魚のさばき方教室（年約10回）
- ◆各種イベントでの水産物の販売（水産加工品を主に、年約6回）
- ◆各種イベントでの漁師鍋の提供（年約30回）

#### ◆魚まつりでの鮮魚販売



#### ◆いつも好評な漁師鍋



## 湘南ひらつか名産品選定委員会 特産品



トマト

生産地区：城島・豊田・土沢・  
神田・旭・大野等

生産時期：3～7月

※完熟系品種を中心に市場出荷と直売  
をしています。



きゅうり

生産地区：金田・城島・岡崎・土沢  
・金目・旭・大野等

生産時期：3～6月、9～12月

※市場出荷を中心とした、生産量県下  
1位の産地です。



こまつな

生産地区：城島・豊田・金田・金目等

生産時期：9～12月を中心に周年

※栄養豊富で新鮮なこまつなを生産し  
ています。



いちご

生産地区：金田・城島・豊田・金目  
・旭・土沢等

生産時期：12～5月

※さちのか、とちおとめを中心に生産  
しています。観光農園もあります。

### 平塚の米

神奈川県下の生産量と作付面積を誇る平塚では、「キヌヒカリ」と「さとじまん」という品種を中心に栽培しており、平塚産ブランドとしてPRし消費拡大しています。



### みんなの取組み

- 平塚で作られる食材を食べる
- 生産者（農業・漁業・畜産業に従事している人）の話を聞く
- 農水産業に関する催しに参加する

## 6. 食文化の継承、展開のための活動の支援（食育基本法第24条）

### 現況と課題

#### 【現況】

平塚ゆかりの小説家、村井弦斎の小説『食道楽』には「小児には徳育よりも智育よりも食育が先。体育、徳育の根源も食育にある」と記述されており、本市には明治時代から食育の思想があったと考えられます。近年の食の多様化や情報の氾濫をふまえ、環境の変化を考慮した食育の理念の継承活動が行われています。

食文化継承の取組みとしては、日本古来の風習を取り入れた行事食を保育施設の給食等で実施しています。幼児期から日本の食に触れることで地域の食文化を継承するための食育活動の機会となっています。また、公民館事業において行事食等を幅広く紹介し、地域の食文化に触れられる場づくりを支援しています。

本市は海や山、川といった自然に囲まれ、県内1位の生産量を誇る稲作をはじめ、野菜や果物、畜産物や水産物等、豊かな食資源に恵まれています。古来からの食文化継承にとどまらず、地域の風土、地場産品をいかし、新たな食文化創作へ向けた取組みも実施しています。

#### 【課題】

現代化した生活環境の中で、豊かな食資源をいかした平塚特有の郷土料理が根づいていない現状があります。このことから、平塚独自の食文化を創出し次世代へ継承していくことが求められています。

### 取組みの方向

- 村井弦斎による食育の思想の継承
- 平塚特産食材を用いた産業の推進と郷土料理創造・啓発事業の発展
- 食文化の継承や創造を行う取組みへの支援

## 主な取り組みと今後の展開

### 村井弦齋による食育の思想の継承

#### ■ 村井弦齋まつり 【村井弦齋まつり実行委員会】

平成12年度に博物館の特別展にあわせて開催された同イベントは、平成13年度以降“ふるさと歴史再発見事業”の一環として行われているものです。現在は村井弦齋公園において年1回、市民との協働のもと開催しています。

村井弦齋の著書『食道楽』で紹介した明治時代の料理を現代風にアレンジした料理の展示、販売などにより、当時の食文化を偲ぶことができます。食にまつわる様々なテーマが取り上げられ、「体育よりも、智育よりも食育が大切ではないか」と提唱した故人を偲ぶ機会として定着しつつあります。

今後も、平塚に居住し、食文化の向上と小説の大衆化に寄与した、村井弦齋とその業績を多くの人々に周知し、町おこしの一環とするため(食育に関するイベントを含めて)毎年趣向を凝らした催事を実施していきます。

村井弦齋まつり



#### ■ 地域料理教室 【平塚市食生活改善推進団体・平塚商工会議所】

地域を拠点として活動する食生活改善推進員は、地区公民館などを利用して「おもてなし料理教室」としてお節料理等を紹介しています。また、地場産の食材を積極的に活用し、地域にあった日本のよりよい食習慣を身近な視点で市民に伝えるために広報紙やFM放送ラジオ等においてレシピ紹介をしています。

平塚商工会議所が主催する「手づくり食工房」では、食の知識と経験のある市民や事業者のマンパワーにより手作り料理教室や食に関する講演会などが開催されています。その一部として定期開催されている「弦齋料理研究会」では、村井弦齋の『食道楽』の料理を現在のレシピにアレンジして作り、平塚ゆかりの文化人の残した食の歴史を幅広く伝えていきます。また「食の歳時記」では、季節折々の日本の食を楽しみながら作り伝える教室が開かれています。

これら、平塚の地に根ざした食生活の営みを広く市民に普及することが食育の思想の継承につながります。

## 村井弦齋 『食道楽』の思想

1903（明治36）年に発表され、たちまち10数万部を売り上げる大ベストセラーとなった、村井弦齋著『食道楽』は、現代のグルメコミックの先駆的存在です。

主人公は、大食漢<sup>たいしょくかん</sup>で太った文学士、現代のメタボ男性のような大原満<sup>おおはらみつる</sup>です。その大原の恋の相手が、才色兼備で料理上手なお登和嬢<sup>おとわじょう</sup>。二人の結婚話がまとまりかけた頃、大原の許嫁お代<sup>しいなずけおだい</sup>という邪魔があらわれ、果たして二人の結婚はどうなるのか？というのが『食道楽』のストーリーです。

ストーリーが展開する中で、お登和が大原に手料理を振る舞う形でメニュー紹介があったり、兄中川と食についてのうんちくを語ったりと、わき道にそれ、それが読者に大層受けたようです。当時まだ珍しかった西洋料理や食材を含む630種以上もの料理をとり上げ、美食小説や食通小説として注目をあびますが、村井弦齋は、彼の執筆したその他の小説の流れから、誤った食生活で太ってしまった大原をお登和がバランスの良い食生活で健康に導くという教訓小説を考案していたといわれています。

『食道楽』の中で語られる思想とはどのようなものでしょう。

- ・ 暴食をすると、物の味がわからない。「小児の時胃袋を拡張したのが生涯の病<sup>やまい</sup>となる。親たるものはよく注意すべし。」
- ・ 空腹を知らないのは実は人間にとって非常に不幸なこと「それがいわゆる飢えたるものは食をなしやすしでね。折角の美味も腹の張った人や食欲のない人に食べさせては詰まん」
- ・ 疾医<sup>しつゐ</sup>より食医<sup>しょくい</sup>が貴<sup>たつと</sup>まれた。「食医とは毎日の食物を研究する医者で大層に尊敬せられたものと見えます。毎日食物の影響を身体に受けていますから疾医より食医が貴まれたのは無理ではありません。」家庭の婦人はその役割を果たす食医になってほしい。

このように、『食道楽』では、「食べることは生命そのものである」という考えを中心に、「なるべく場所に近きものを食す」という地産地消のもととなる考えや「消化と排泄の調和をはかること」という身体維持の考え等で展開しています。

村井弦齋の愛した平塚で、「人間にとって食べることは何か」を共に考え、食育として伝え広げていきます。

参考著書 「食道楽」 村井弦齋著 岩波文庫  
「食育のススメ」 黒岩比佐子著 文春新書

## 食文化を創造、継承していくマンパワーへの活動支援

### ■ 食文化を継承する食育推進団体の活動支援【健康課】

全国に先がけて昭和33年に地域での食育活動を開始した平塚市食生活改善推進団体の活動を支援するため、活動に必要な知識や技術の習得を目的とした養成・育成講座を実施しています。

同団体は平成3年に「わがまちひらつかの伝統料理～伝えたい郷土料理」と題したメニュー集を発行しており、続版を作成、普及啓発することにより、新たな「平塚伝承料理」を創造していきます。また、各地域での伝達講習会において次世代に平塚の食文化の継承を実施していきます。

食育イベント展示  
地場産野菜オブジェ  
『野菜のメルヘン』



## 食文化の継承事業の充実

### ■ 学校給食における食文化の伝承【学校給食課】

日常の食生活の中で季節感や日本の地域性をいかした食生活習慣が失われつつある中、次世代を担う子どもたちに対し、学校給食等の「行事食」を通して日本古来の食文化を伝える取組みをしています。

### ■ 公民館での食文化継承事業【社会教育課】

地域の協力を得ながら実施する祭礼行事等に関する伝統文化保存の行事において、食文化に関わる取組みをし、伝統ある食文化の継承を促進します。

どんど焼きのためのだんごづくり事業



## みんなの取組み

- 村井弦斎の食育の考えを伝える
- 伝統食や行事食を食べたり作ったりする機会を持つ

# 湘南ひらつか名産品

(食品のみ抜粋)

■ひらつか囲碁最中



■七夕ふりかけ



■たたみいわし



■バラの花びら



■味付落花生



■やまと豚ロースハム



■湘南ばら羊かん



## 7. 食品の安全性、栄養・その他食に関する調査、情報提供

(食育基本法第25条)

### 現況と課題

#### 【現況】

健全な食生活を実践するためには、市民一人ひとりが自らの判断で、よりよい食生活を営んでいくことが求められます。市民が必要とする情報を的確に届けるためには、食生活の現状を把握することが必要です。本市では平成15年度、18年度に食生活状況調査を実施しました。

また、食品の産地偽装や農薬残留の事件による食の安全に対する不安、メタボリックシンドローム対策などの健康管理、健康な食生活に関する関心は高まりつつあります。

#### 【課題】

本市の現状把握に努めるとともに、各食育実施団体と協働し、調査結果より挙げられた改善目標を普及啓発することが必要です。

また、市民の事業への参加意欲をさらに推進するために、ライフステージに応じたきめ細やかな情報提供をしていく必要があります。

### 取組みの方向

- 安全な食材の使用
- 国、県との連携による食の情報提供
- 食品に関する各種講座の開催
- 食生活調査の実施による改善目標の明確化
- 食育推進計画に基づいた適切かつ効率的な事業展開

## 主な取組みと今後の展開

### 国、県との連携

#### ■ かながわ食の安全・安心の取組み

本市では、国、県と連携を図りつつ、「かながわ食の安全・安心の取組み」にもとづく、安全で安心な食の確保に向けた取組みを進めます。

神奈川県の食の安全・安心に関する情報

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/seikatueisei/anzen/index.html>

かながわ 食の安全

検索



### 食の安全・安心等に関する講座の開催

#### ■ 親子消費者教室【市民情報・相談課】

小学生及び保護者を対象に実習などを通して消費生活に関する知識や情報を分かりやすく提供していきます。

親子消費者教室



#### ■ 暮らしの講座【市民情報・相談課】

消費者である市民に、消費生活に関する情報を提供し、消費者としての自立した健全な消費生活を支援していきます。食生活、生活設計、環境問題等の様々な内容をテーマとした講座を開催していきます。

## **広報媒体を活用した情報提供の推進**

### ■ 広報媒体を活用した情報提供【食育関連各課】

各食育実施団体と連携のうえ、共通の媒体（ポスターやチラシ等）を作成し、多様な場面で市民に情報提供を実施します。

また食の安全に対する問題が生じた場合には、市のホームページ等を使って情報を発信していきます。

## **学校給食での取組みの推進**

### ■ 学校給食での食の安全【学校給食課】

給食の食材の安全確認のために、細菌検査・残留農薬検査を実施するとともにBSE陰性の証明、非遺伝子組み換えの証明、魚については水揚げ地、最終加工地等の各種資料を今後も収集していきます。

## **みんなの取組み**

- 買い物の時に食品の鮮度や産地を確認する
- 食の安全を守る必要性を子どもたちに伝える

## 第 5 章

ライフステージに応じた

食育の推進

## 第5章 ライフステージに応じた食育の推進

市民一人ひとりが、各ライフステージ（乳幼児期、学童・思春期、青年期、壮年期、高齢期）ごとの特徴にあわせて、食育を推進できるようにその取組みを示します。

ステージ	テーマ	ポイント	食に関する主な事業とイベント
乳幼児期 (0～6歳)	家庭を基盤とした望ましい食習慣の基礎をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>食前食後のあいさつ「いただきます」「ごちそうさま」を言う習慣を身につける。</li> <li>好き嫌いなく食事をする。</li> <li>食べることを楽しむ。</li> <li>食べ物に関心を持つ。</li> </ul>	離乳食教室 2歳児幼児教室 母親父親教室 母乳育児教室 子どもの生活習慣病予防対策事業 開放保育
学童・思春期 (7～19歳)	規則正しい生活の形成と栄養バランスのとれた食事を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食の大切さを理解する。</li> <li>栄養バランスを考えて食べる。</li> <li>農業体験や調理を通じて食への感謝の気持ちを育てる。</li> <li>家族で食卓を囲む。</li> </ul>	給食試食会 地域育児センター 食育年間指導計画に基づく食育の推進 赤ちゃん広場 学校給食地場産野菜使用推進事業 食に関する指導
青年期 (20～39歳)	栄養バランスのとれた食生活の実践と朝食を食べる習慣を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活リズムに応じた3度の食事と偏りのない食事をとる。</li> <li>食に関する情報を理解し選択する。</li> <li>食事を自分で作る。</li> <li>食べすぎ飲みすぎに気をつける。</li> </ul>	ふれあい給食事業 夏休み子ども農業体験学習 親子収穫体験会 親子消費者教室 食生活改善推進員養成・育成事業 健康づくり教室
壮年期 (40～64歳)	健全な食生活を実践し生活習慣病を予防する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を見直し適正体重の維持に努める。</li> <li>自ら食育を実践し次世代に食の大切さを伝える。</li> <li>家庭での食事を大切にする。</li> </ul>	祖父母のための育児教室 湘南朝市 湘南ひらつかふれあいマーケット 魚まつり J A湘南でてこいまつり
高齢期 (65歳～)	自分の健康管理に努め年齢に合った無理のない食生活をおくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や友人との食事を楽しむようにする。</li> <li>今までの人生経験の中から得た食の知識や技術を次世代に伝える。</li> </ul>	消費生活展 村井弦斎まつり

## 第 6 章

### 推進体制の整備

## 第6章 推進体制の整備

食育推進計画の推進にあたっては、次の2つの組織において、進捗状況の点検・評価、課題の解決に向けた調整等を行い、計画に位置づけた施策の推進を図ります。

### (1) 平塚市食育推進委員会

食育推進委員会の委員は、保育・教育関係者、医療関係者、食育に取り組んでいる市民団体、食品関連事業者、学識経験者、行政等、食に関わる多様な主体により構成されています。

平塚市食育推進委員会は計画の見直しや施策に関する審議を行うほか、計画の進捗状況の把握・評価を行い、計画の着実な推進を図ります。

### (2) 平塚市食育推進計画進行会議

食育の取組みが総合的かつ計画的に推進されるよう、庁内の関係部署で構成する平塚市食育推進計画進行会議において、連絡・調整を行います。

## 參考資料

## 平塚市食育推進委員会設置要綱

### (設 置)

第1条 食育基本法第18条の規定に基づき、(仮称)平塚市食育推進計画(以下「計画」という。)の策定及び計画の推進等をするため、平塚市食育推進委員会(以下「委員会」という。)の設置について必要な事項を定めるものとする。

### (所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次に掲げるものとする。

- (1) 計画の策定に関すること
- (2) その他計画の策定に必要な事項
- (3) 計画の推進に関すること
- (4) その他委員会で必要と認める事項

### (組 織)

第3条 委員会は、委員25人以内で組織する。

### (委 員)

第4条 委員会の委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 公募委員
- (3) 食に関係する団体等の推薦する者
- (4) 保育、教育関係団体等の推薦する者
- (5) 保健分野の団体等の推薦する者

### (任 期)

第5条 委員の任期は3年間として、平成22年3月までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員の報酬)

第6条 委員の報酬は、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例に準じ予算の範囲内において支給する。

### (委員長及び副委員長)

第7条 委員会に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会 議)

第8条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員長は、半数以上の委員の出席がなければ、会議を開き議事を決することはできない。

(意見等の聴取)

第9条 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その説明を聴くことができる。

(専門部会)

第10条 専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、健康・子ども部健康課において処理する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成19年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年1月1日から施行する。

## 平塚市食育推進委員会

団体名	役職等	氏名
駒沢女子大学	人間健康学部教授	佐藤 加代子
湘南農業協同組合（JA湘南）	組織相談課長	青木 宏
湘南ひらつか魚食普及協議会	会長	土井 博泰
湘南生活クラブ生協 commons	運営委員長	草野 景子 (H20年度まで 片倉 京子)
平塚市私立幼稚園協会	湘南桜ヶ丘幼稚園理事長	久保田 光蔵
平塚民間保育園連盟	会長	酒井 かず子
平塚市医師会	公衆衛生担当理事	中村 千里
平塚歯科医師会	学校保健担当理事	小川 哲史 (H20年度まで 佐々木 明彦)
平塚中郡薬剤師会	会長	片山 隆博 (H20年度まで 中野 信利)
村井弦斎の会	会長	鳥海 義晃
平塚商工会議所	手づくり食工房コーディネーター	端山 慶子 (H19年度 前田 行男)
神奈川県栄養士会第六ブロック		前澤 薫子
平塚地区食品衛生協会	会長	森田 利海
平塚中央青果商業組合	組合長	新井 一
市民代表		長野 文江
市民代表		石橋 智子
平塚市食生活改善推進団体	会長	滝口 千賀子
平塚市立小学校長会	神田小学校校長	田中 千勢子 (H20年度まで 會田 栄)
平塚市立中学校長会	春日野中学校校長	宮川 邦生 (H19年度 竹内 清) (H20年度 石井 悦夫)
神奈川県立平塚農業高等学校	教諭	伊藤 謙二 (H19年度 竹内 睦子) (H20年度 杉本 織穂)
平塚保健福祉事務所	副技幹	前田 みゆき

## 平塚市食育推進計画関連各課

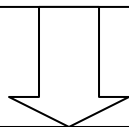
部 名	課 名	場 所	連 絡 先 (直通)
経済部	農水産課	平塚市豊原町2番21号 (豊原分庁舎)	35-8102 (農政) 21-2066 (水産)
	産業振興課	平塚市浅間町9番1号	21-9758
市民部	市民情報・相談課 (消費生活担当)	平塚市八重咲町3番3号 (JAビルかながわ2階)	20-5775
健康・こども部	こども家庭課 (保育担当)	平塚市浅間町9番1号	21-9612
	健康課	平塚市東豊田448番地3 (平塚市保健センター)	55-2111
教育総務部	学校給食課	平塚市豊原町2番21号 (豊原分庁舎)	35-8119
学校教育部	指導室	平塚市豊原町2番21号 (豊原分庁舎)	35-8120
	学務課	平塚市豊原町2番21号 (豊原分庁舎)	35-8118
	教職員課	平塚市豊原町2番21号 (豊原分庁舎)	35-8116
社会教育部	社会教育課	平塚市豊原町2番21号 (豊原分庁舎)	34-2111 (中央公民館) 35-8124 (文化財保護)
企画部	企画課	平塚市浅間町9番1号	21-8760

注) 市外局番は0463になります

## 平塚市食育推進計画策定体制

### 食育推進計画ワーキング部会（関連各課担当者）

食育の推進及び食育推進計画策定に関する必要な基礎的事項、情報収集等を行う。

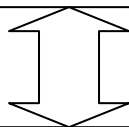


### 食育推進計画策定専門部会（関連各課長）

食育の推進に関する基本的事項及び関係各課・機関等における具体的対策を検討するとともに、関係課・機関等の協力体制の整備をはかる組織。

<所掌事務>

- ・ 平塚市食育推進計画の策定及び推進に関する事項
- ・ 関係課・機関等の相互の協力体制に関する事項
- ・ 食育に関する情報の収集及び共有に関する事項



### 平塚市食育推進委員会

平塚市の食育の推進に関すること及び食育推進計画の策定及び進行管理を行う。

関係団体：平塚市食生活改善推進団体・J A 湘南・湘南ひらつか魚食普及協議会

平塚商工会議所・湘南生活クラブ生協 commons・村井弦斎の会

平塚地区食品衛生協会・平塚中央青果商業組合

関係機関：平塚市医師会・平塚歯科医師会・平塚中郡薬剤師会

平塚保健福祉事務所・栄養士会・平塚市私立幼稚園協会

平塚民間保育園連盟・平塚市立小学校長会

平塚市立中学校長会・神奈川県立平塚農業高等学校

市民代表：一般市民公募

学識経験者：大学教授

## 用語解説

### 石塚左玄

石塚左玄は1851年に福井市に誕生しました。今から100年以上も前に世の中の根幹は食であり人の心身は食によって作られると食と食育の重要性を訴えました。

又、日本で初めて「食育」という言葉を使った人物として有名です。

### 栄養教諭

児童・生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる教員のことで、栄養教育の推進を目指して平成17年に新たに設けられた制度です。

### 五感

視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚を言います。

### 市民

平塚市食育推進計画での市民とは平塚市自治基本条例上の市民を指します。その定義に基づき、市民とは「市の区域内において居住する人、働く人、学ぶ人、事業を営む者、活動する団体等」をいいます。

### 食育基本法

近年の我が国の食をめぐる状況の変化に伴い様々な問題に対処していくため、平成17年6月、「食育」に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力のある社会の実現に寄与することなどを目的として食育基本法が公布されました。

### 食育推進基本計画

食育基本法（平成17年7月施行）の規定に基づき設置された食育推進会議において、平成18年3月31日に食育推進基本計画が決定されました。この基本計画は18年度から22年度までの5年間を対象とし、食育の推進に当たっての9項目の目標値を掲げるとともに、食育の総合的な促進に関する事項として取り組むべき施策等を提示しています。

### 食育白書

食育基本法に基づいて政府が報告する白書であり、政府が毎年国会に提出しなければならないとされているものです。

## 食事バランスガイド

「食事バランスガイド」とは1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかが一目でわかる食事の目安です。「主食」、「副菜」、「主菜」、「牛乳・乳製品」、「果物」の5グループの料理や食品を組み合わせてとれるよう、コマにたとえてそれぞれの適量がイラストで分かりやすく示されています。

## 食の外部化

近年、家の中で行われていた調理や食事を家の外に依存する状況が見られ、食品産業においても、食料消費形態の変化に対応した調理食品やそう菜、弁当といった「中食」の提供や市場拡大が進んでいる動向を総称して呼びます。

## 食みらい かながわプラン

神奈川県食育推進計画の愛称。

## 日本型食生活

日本型食生活は、日本の気候風土に適した米を中心に水産物、畜産物、野菜等多様な副食から構成され、栄養バランスに優れていることから、生活習慣病の予防に役立ちます。また、その土地の旬のものを食べる事は栄養的にも優れており、地産地消にもつながります。

## 平塚市子どもの生活習慣病予防対策委員会

小児期における生活習慣病の予防のため、平塚市医師会、歯科医師会、保育園、小学校と平塚市がタイアップし平成5年より発足しました。

## 平塚市総合計画

平塚市の地域特性をいかし、時代に適合する将来のまちの姿を示す総合的、計画的な指針となるものです。食育の推進について、平塚市総合計画の中では、「子どものころから、望ましい食生活・食習慣を身につけるため、地域の食文化や農業・漁業に触れながら、学校や家庭、地域社会における食に関する教育活動を推進します。」と記載されています。

## ひらつか花アグリ

神奈川県と平塚市が金田地区に整備した「花と緑のふれあい拠点」の正式名称。エリア内には四季折々の花を楽しんだり、農業や園芸の体験・学習ができる「花菜（かな）ガーデン」や大型市民農園、農産物大型直売センター、イチゴ収穫体験農園等があります。

## 村井弦斎

村井弦斎は本名を村井寛（ゆたか）といい、1863年豊橋に生まれました。1904年から63歳で死去する1927年までを現在の平塚市八重咲町で過ごしています。生涯に60編を超える小説を書き、明治・大正期に「当世第一」とうたわれた超人気作家でした。また評論においても、時代を先取りした論説を展開していました。

## メタボリックシンドローム

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪症に加え、高血糖、高血圧、脂質異常という危険因子のうち、2つ以上を保有している状態をいいます。不健康な生活習慣（不適切な食生活、運動不足、喫煙の習慣など）により内臓肥満になり、危険因子が増加し動脈硬化が進行します。

結果的に、深刻な循環器病や心臓病、糖尿病の合併症などの発病につながります。

## ヤーコン

ヤーコンは、南米アンデス原産の根菜で、梨のように甘く、しゃきしゃきした食感が特徴で、健康野菜として注目されています。

## 平成19年度食育推進のための実態調査

調査目的： 食や食育に関する市民の意識等について調査を行い、平塚市食育推進計画の策定及び食育施策の推進にあたっての基礎資料とする。

調査項目： 1 フェイスシート  
2 食事のとりかたなど  
3 食の安全に関すること  
4 地産地消に関すること  
5 食育への関心について  
6 今後の施策への期待

調査対象： (1)平塚市内在住の0歳(保護者)～74歳までの男女  
(2)住民基本台帳からの無作為抽出3000人

調査方法： 郵送による送付、返送

調査日： 平成19年9月5日～9月30日

回収結果： 有効回答数 1179人 39.3%  
[ ]については、回答率の高い値

### 性別・年齢別回収結果

性別	年齢	標本数	回収数	回収率	性別	年齢	標本数	回収数	回収率
男 性	0～5歳	72	28	38.9%	女 性	0～5歳	69	30	43.5%
	6～10歳	65	23	35.4%		6～10歳	72	38	52.8%
	11～15歳	83	28	33.7%		11～15歳	77	33	42.9%
	16～19歳	61	20	32.8%		16～19歳	68	15	22.1%
	20歳代	244	43	17.6%		20歳代	191	60	31.4%
	30歳代	290	54	18.6%		30歳代	229	99	43.2%
	40歳代	238	67	28.2%		40歳代	196	98	50.0%
	50歳代	214	88	41.1%		50歳代	254	121	47.6%
	60歳代	221	115	52.0%		60歳代	214	129	60.3%
70～74歳	75	47	62.7%	70～74歳	67	43	64.2%		
合計		1563	513	32.8%	合計		1437	666	46.3%

### 地域別回収数

地区	標本数	回収数	回収率
平塚	438	236	53.9%
海岸	475	188	39.6%
大野	303	105	34.7%
大野西	343	111	32.4%
神田	307	111	36.2%
豊田	64	32	50.0%
岡崎	119	46	38.7%
城島	52	15	28.8%
金田	127	43	33.9%
金目	182	80	44.0%
土沢	77	34	44.2%
旭	513	178	34.7%
合計	3000	1179	39.3%

### 全年齢回収数

	標本数	回収数	回収率
0～5歳	141	58	41.1%
6～10歳	137	61	44.5%
11～15歳	160	61	38.1%
16～19歳	129	35	27.1%
20歳代	435	103	23.7%
30歳代	519	153	29.5%
40歳代	434	165	38.0%
50歳代	468	209	44.7%
60歳代	435	244	56.1%
70～74歳	142	90	63.4%

問5 あなたの健康状態は、次のうちどちらですか

	0～5歳	6～10歳	11～15	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
大変良い	56.9%	37.7%	31.1%	22.9%	16.5%	15.0%	4.8%	6.2%	7.0%	4.4%	14.0%
よい	34.5%	39.3%	31.1%	28.6%	35.9%	37.9%	32.7%	31.1%	21.7%	22.2%	30.5%
ふつう	6.9%	23.0%	32.8%	34.3%	35.9%	41.2%	49.7%	52.6%	59.8%	54.4%	45.5%
あまりよくない	0.0%	0.0%	3.3%	8.6%	9.7%	4.6%	9.7%	9.1%	9.0%	10.0%	7.5%
よくない	1.7%	0.0%	0.0%	5.7%	1.9%	1.3%	1.8%	0.5%	1.6%	6.7%	1.8%

問6 あなたは日ごろ、次のうちで感じることはありますか

	0～5歳	6～10歳	11～15	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
眠い	3.4%	6.6%	27.9%	28.6%	33.0%	27.5%	23.0%	16.3%	10.2%	5.6%	17.9%
朝起きれない	10.3%	19.7%	14.8%	11.4%	10.7%	9.8%	3.0%	1.0%	2.9%	3.3%	6.3%
だるい	0.0%	0.0%	3.3%	11.4%	10.7%	14.4%	20.0%	13.4%	7.8%	11.1%	10.9%
やる気がない	0.0%	1.6%	6.6%	5.7%	8.7%	3.9%	3.6%	6.2%	4.1%	4.4%	4.7%
イライラする	1.7%	1.6%	6.6%	5.7%	6.8%	7.8%	9.7%	5.3%	2.9%	1.1%	5.3%
ボンヤリする	0.0%	3.3%	4.9%	0.0%	1.9%	0.0%	1.2%	1.9%	0.4%	1.1%	1.3%
体調を崩しやすい	5.2%	1.6%	1.6%	11.4%	3.9%	5.2%	4.2%	6.7%	11.1%	6.7%	6.4%
特に感じない	65.5%	63.9%	34.4%	22.9%	23.3%	29.4%	30.3%	46.4%	54.9%	61.1%	43.3%
その他	10.3%	1.6%	0.0%	2.9%	1.0%	2.0%	1.8%	2.9%	5.7%	3.3%	3.2%

問7 あなたの現在の家族構成は次のうちどちらですか

	0～5歳	6～10歳	11～15	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
一人暮らし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	3.9%	5.5%	5.7%	11.5%	15.6%	6.4%
夫婦だけ	1.7%	0.0%	1.6%	0.0%	9.7%	17.0%	6.7%	18.7%	37.7%	42.2%	18.5%
親と子(2世代)	75.9%	68.9%	65.6%	74.3%	65.0%	63.4%	70.3%	54.5%	43.9%	37.8%	58.3%
祖父母、親、子ども	20.7%	31.1%	32.8%	25.7%	18.4%	11.1%	15.2%	18.2%	6.1%	2.2%	14.9%
その他	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	4.6%	1.8%	1.9%	0.8%	1.1%	1.6%

問8 あなたの外出する回数がどのくらいですか(外出とは食堂レストラン等でたべること)

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
ほとんどしない	50.0%	65.6%	63.9%	40.0%	26.2%	39.9%	49.1%	56.5%	60.2%	64.4%	52.1%
週に1回	43.1%	31.1%	24.6%	22.9%	39.8%	37.9%	31.5%	26.8%	28.7%	30.0%	31.5%
週に2～3回	6.9%	3.3%	9.8%	20.0%	19.4%	14.4%	9.1%	5.7%	7.8%	2.2%	9.2%
週に4～5回	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	10.7%	3.3%	6.1%	7.7%	2.9%	3.3%	4.8%
週に6回以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.9%	4.6%	3.6%	3.3%	0.4%	0.0%	2.1%

問9 あなたのレトルト食品、加工食品、調理済み食品などを食べる(使う)回数はどれくらいですか

	0～5歳	6～10歳	11～15	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
ほとんど食べない	25.9%	24.6%	31.1%	11.4%	15.5%	13.7%	14.5%	31.1%	41.0%	33.3%	26.2%
週に1回	31.0%	34.4%	21.3%	8.6%	27.2%	34.0%	29.7%	29.2%	34.0%	41.1%	31.0%
週に2～3回	36.2%	36.1%	29.5%	60.0%	36.9%	34.6%	36.4%	30.1%	20.1%	14.4%	30.4%
週に4～5回	6.9%	4.9%	13.1%	17.1%	14.6%	9.8%	13.9%	5.7%	4.5%	5.6%	8.7%
週に6回以上	0.0%	0.0%	4.9%	2.9%	5.8%	7.2%	4.8%	2.9%	0.0%	3.3%	3.2%

問10 あなたの朝食を食べる頻度はどれくらいですか

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
毎日食べる	87.9%	96.7%	80.3%	54.3%	62.1%	77.1%	83.6%	85.6%	88.5%	94.4%	83.0%
週に4～5回	5.2%	3.3%	14.8%	17.1%	18.4%	5.2%	3.6%	4.3%	4.1%	0.0%	6.1%
週に2～3回	5.2%	0.0%	1.6%	8.6%	2.9%	5.2%	1.8%	2.9%	2.9%	1.1%	3.0%
週に1回	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	1.3%	2.4%	1.9%	0.4%	1.1%	1.1%
時々食べる	1.7%	0.0%	1.6%	14.3%	5.8%	5.2%	3.0%	2.4%	1.2%	1.1%	3.0%
食べない	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	9.7%	4.6%	4.2%	2.4%	2.0%	0.0%	3.0%

問11 どのようなものを食べていますか

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
主食・主菜・副菜	44.8%	57.4%	49.2%	26.5%	39.8%	34.9%	44.9%	61.8%	74.1%	73.3%	54.9%
主食・主菜	12.1%	13.1%	18.0%	32.4%	14.0%	18.5%	19.6%	12.3%	7.5%	10.0%	14.0%
主食・副菜	31.0%	23.0%	13.1%	20.6%	25.8%	24.7%	17.1%	13.7%	10.0%	11.1%	17.1%
主食だけ	10.3%	3.3%	14.8%	14.7%	11.8%	15.1%	13.3%	4.9%	2.5%	0.0%	8.0%
主菜だけ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	2.1%	0.0%	1.5%	0.4%	0.0%	0.7%
副菜だけ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.6%	0.5%	2.5%	1.1%	1.0%
健康補助食品	0.0%	1.6%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%	0.5%
菓子・果物	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	1.3%	0.5%	0.0%	1.1%	0.4%
その他	1.7%	1.6%	3.3%	0.0%	5.4%	2.7%	1.3%	2.9%	1.3%	1.1%	2.2%

問12 食べないと答えた方へ、食べない理由はなんですか

(人)

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
食べないと回答	0	0	0	1	10	7	7	5	5	0	35
食べる習慣がない	0	0	0	1	3	3	2	1	2	0	12
時間がない	0	0	0	0	4	1	0	4	0	0	9
食欲がない	0	0	0	0	2	2	2	0	2	0	8
食事が用意できていない	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ダイエットのため	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
体調が悪い	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3

その他の意見

20歳代 : カロリー

40歳代 : 2食にしているため

60歳代 : 夜遅くまで起きているので、起きるのが遅いから

問13 あなたは朝食、昼食、夕食それぞれ、誰と食べていますか

		0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
朝食	家族全員	27.6%	27.9%	27.9%	14.3%	8.7%	39.9%	47.9%	22.5%	16.0%	12.2%	25.5%
	父親・母親・祖父母のいずれか	60.3%	42.6%	21.3%	14.3%	29.1%	5.2%	4.8%	2.9%	1.6%	2.2%	11.6%
	夫・妻	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%	11.1%	9.7%	34.4%	51.2%	57.8%	24.5%
	兄弟姉妹	10.3%	23.0%	32.8%	17.1%	2.9%	0.7%	1.2%	0.0%	0.0%	1.1%	4.5%
	友人知人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.1%	0.3%
	同級生・同僚	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.9%	0.7%	1.2%	0.5%	0.4%	1.1%	0.8%
	自分ひとり	1.7%	4.9%	16.4%	48.6%	37.9%	37.3%	30.3%	35.9%	26.6%	17.8%	28.2%
	食べていない	0.0%	0.0%	0.0%	5.7%	6.8%	3.3%	3.0%	2.4%	2.0%	0.0%	2.5%
昼食	家族全員	10.3%	4.9%	11.5%	2.9%	3.9%	19.6%	7.9%	10.0%	10.7%	8.9%	10.1%
	父親・母親・祖父母のいずれか	44.8%	8.2%	3.3%	2.9%	10.7%	7.2%	5.5%	4.3%	2.0%	2.2%	6.9%
	夫・妻	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	3.9%	3.6%	12.0%	42.2%	57.8%	16.5%
	兄弟姉妹	1.7%	3.3%	1.6%	0.0%	1.9%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%
	友人知人	5.2%	1.6%	8.2%	25.7%	9.7%	3.9%	4.2%	11.0%	3.7%	4.4%	6.5%
	同級生・同僚	37.9%	82.0%	72.1%	57.1%	46.6%	28.8%	33.9%	22.0%	8.2%	1.1%	29.8%
	自分ひとり	0.0%	0.0%	1.6%	11.4%	23.3%	34.6%	40.0%	38.8%	30.3%	17.8%	27.1%
	食べていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	1.8%	1.0%	0.8%	1.1%	0.8%
夕食	家族全員	34.5%	55.7%	59.0%	54.3%	29.1%	54.2%	59.4%	39.7%	24.2%	20.0%	40.7%
	父親・母親・祖父母のいずれか	58.6%	37.7%	32.8%	20.0%	29.1%	6.5%	5.5%	4.3%	2.5%	3.3%	12.8%
	夫・妻	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.7%	17.6%	11.5%	34.9%	53.7%	53.3%	26.1%
	兄弟姉妹	3.4%	3.3%	0.0%	5.7%	2.9%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%	1.1%	1.0%
	友人知人	1.7%	0.0%	0.0%	5.7%	3.9%	0.7%	1.2%	1.0%	2.0%	1.1%	1.5%
	同級生・同僚	1.7%	1.6%	1.6%	0.0%	2.9%	2.6%	2.4%	1.4%	0.0%	1.1%	1.5%
	自分ひとり	0.0%	0.0%	4.9%	14.3%	20.4%	16.3%	15.8%	16.7%	15.2%	14.4%	14.0%
	食べていない	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.0%	1.3%	0.6%	0.5%	0.8%	0.0%	0.7%

自分ひとりで食べている人のみ抽出（各年齢の一人暮らしを除いた各年齢回答数を100として%を出す）

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
朝食	1.7%	4.9%	16.4%	48.6%	33.0%	34.0%	26.1%	30.6%	16.0%	8.9%
昼食	0.0%	0.0%	1.6%	11.4%	22.3%	31.4%	37.0%	35.9%	23.0%	7.8%
夕食	0.0%	0.0%	4.9%	14.3%	17.5%	13.1%	11.5%	12.9%	6.6%	4.4%

問14 いままでの食生活の中で、困ったこと(不安だったこと)がありますか

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
好き嫌いや偏食	39.7%	27.9%	24.6%	11.4%	19.4%	12.4%	12.7%	5.3%	3.7%	2.2%	12.0%
食物アレルギー	1.7%	3.3%	3.3%	5.7%	1.0%	5.9%	5.5%	2.4%	0.8%	0.0%	2.8%
ダイエット	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	13.6%	7.8%	6.7%	8.1%	4.9%	3.3%	6.1%
病気のときの食事	5.2%	1.6%	1.6%	0.0%	2.9%	2.6%	6.1%	3.8%	7.4%	7.8%	4.7%
食品の安全性	3.4%	0.0%	4.9%	11.4%	10.7%	24.2%	26.1%	29.2%	25.4%	26.7%	20.9%
食べて具合が悪くなったとき	0.0%	3.3%	4.9%	2.9%	4.9%	2.6%	1.2%	1.0%	1.6%	1.1%	2.0%
その他	0.0%	4.9%	0.0%	2.9%	1.0%	2.0%	1.2%	1.0%	0.4%	1.1%	1.2%
特になかった	48.3%	57.4%	59.0%	54.3%	44.7%	41.8%	38.8%	48.3%	54.1%	43.3%	47.8%

問15 「困ったこと」「不安だったこと」があると答えた方へ、解決策のための情報はありましたか

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
ある	53.3%	53.8%	44.0%	31.3%	45.6%	56.2%	58.4%	59.3%	65.2%	29.4%	54.1%
ない	26.7%	26.9%	52.0%	56.3%	49.1%	40.4%	32.7%	35.2%	21.4%	29.4%	34.3%

問16 問15で「ある」と答えた方へ その情報はどこから得られましたか(主なもの3つまで)

	0～5歳	6～10歳	11～15歳	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
テレビ、ラジオ	12.5%	42.9%	9.1%	40.0%	61.5%	50.0%	64.4%	51.6%	58.9%	100.0%	54.4%
新聞	6.3%	21.4%	0.0%	0.0%	11.5%	24.0%	37.3%	42.2%	42.5%	93.3%	33.9%
雑誌、専門書	25.0%	35.7%	0.0%	60.0%	30.8%	36.0%	28.8%	37.5%	26.0%	33.3%	30.9%
インターネット	18.8%	0.0%	0.0%	80.0%	38.5%	24.0%	20.3%	9.4%	1.4%	0.0%	14.4%
保育所幼稚園学校	12.5%	7.1%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%
食に関する教室	6.3%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.7%	4.7%	6.8%	6.7%	3.9%
病院	12.5%	21.4%	9.1%	0.0%	15.4%	22.0%	16.9%	12.5%	19.2%	26.7%	17.1%
公民館	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.6%
友人・家族	37.5%	28.6%	72.7%	20.0%	50.0%	38.0%	39.0%	31.3%	35.6%	86.7%	39.9%
電話相談、相談会場	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
その他	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	6.0%	5.1%	7.8%	2.7%	13.3%	5.1%

\*「ある」と回答した人を100としたときの割合

問17 食品全般を買う際、どんなことを確認しますか(主なもの3つまで)

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
製造日・消費期限	62.9%	78.6%	84.3%	86.1%	83.3%	80.3%	91.1%	82.7%
鮮度	22.9%	32.0%	39.9%	47.3%	49.3%	60.2%	64.4%	48.8%
値段	60.0%	71.8%	64.1%	57.6%	38.8%	31.1%	34.4%	47.6%
産地	14.3%	26.2%	45.8%	41.8%	48.3%	48.4%	48.9%	43.4%
安全性	11.4%	10.7%	15.0%	15.2%	24.4%	23.8%	16.7%	18.7%
食遺品添加物	11.4%	6.8%	11.8%	14.5%	22.0%	19.7%	11.1%	15.7%
おいしさ	31.4%	29.1%	14.4%	9.7%	11.5%	9.4%	6.7%	13.2%
内容量	22.9%	8.7%	9.2%	4.8%	2.4%	2.0%	1.1%	5.0%
話題性	11.4%	3.9%	2.0%	3.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.8%
ブランド	5.7%	2.9%	0.7%	1.8%	1.9%	2.0%	0.0%	1.8%
簡便性	0.0%	3.9%	2.0%	1.2%	1.9%	0.4%	1.1%	1.5%
その他	2.9%	1.0%	1.3%	1.2%	0.5%	0.4%	0.0%	0.8%

問18 野菜や魚、肉を購入する際、産地を確認しますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
確認する	51.4%	52.4%	85.0%	89.1%	87.1%	86.9%	81.1%	81.7%
確認しない	48.6%	45.6%	13.7%	9.7%	10.5%	10.2%	13.3%	16.0%

問19 「確認する」と答えた方へ 優先する産地はどこですか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
国産	48.6%	41.7%	73.9%	67.9%	67.5%	64.3%	55.6%	63.4%
それぞれの名産地	2.9%	6.8%	7.8%	14.5%	9.1%	7.4%	6.7%	8.7%
平塚産	2.9%	1.9%	2.0%	3.0%	9.1%	9.0%	15.6%	6.6%
県内産	0.0%	1.9%	0.7%	1.2%	1.4%	3.7%	3.3%	2.0%
外国産	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問20 平塚市でとれる地場産品(農水産物)で思い浮かぶものがありますか(主なもの3つ)

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
しらす	34.3%	30.1%	31.4%	31.5%	29.2%	38.1%	32.2%	32.6%
きゅうり	14.3%	9.7%	12.4%	21.2%	23.9%	17.2%	18.9%	17.8%
小松菜	0.0%	8.7%	13.7%	15.8%	20.6%	20.5%	21.1%	16.8%
アジ・イワシ	5.7%	9.7%	7.8%	11.5%	17.2%	22.1%	18.9%	15.0%
米	14.3%	10.7%	10.5%	12.1%	15.8%	14.3%	10.0%	12.9%
さつまいも	14.3%	10.7%	7.8%	13.9%	16.3%	13.1%	12.2%	12.8%
トマト	14.3%	5.8%	9.8%	12.7%	14.4%	14.3%	14.4%	12.5%
いちご	8.6%	8.7%	9.2%	6.1%	8.6%	10.2%	7.8%	8.6%
長ネギ	8.6%	7.8%	4.6%	9.1%	8.6%	8.2%	3.3%	7.4%
ヤーコン	20.0%	6.8%	9.8%	8.5%	5.7%	4.9%	0.0%	6.7%
ほうれん草	2.9%	3.9%	5.9%	4.8%	8.1%	6.1%	0.0%	5.4%
バラ	8.6%	9.7%	3.3%	4.2%	4.3%	2.9%	5.6%	4.6%
梨	0.0%	4.9%	2.6%	6.7%	3.3%	6.1%	1.1%	4.3%
ナス	2.9%	0.0%	5.2%	3.0%	5.3%	4.5%	4.4%	4.0%
キャベツ	8.6%	5.8%	2.0%	1.2%	5.3%	3.3%	6.7%	3.9%
落花生	2.9%	4.9%	2.6%	3.0%	5.3%	2.5%	0.0%	3.2%
枝豆	2.9%	1.0%	2.0%	1.8%	3.8%	2.9%	1.1%	2.4%
大根	0.0%	1.0%	2.0%	1.2%	1.9%	3.7%	2.2%	2.1%
たたみいわし	0.0%	1.9%	1.3%	1.8%	1.4%	3.3%	1.1%	1.9%
玉ねぎ	5.7%	1.0%	0.0%	2.4%	1.9%	1.6%	3.3%	1.8%
さといも	2.9%	1.0%	0.7%	0.6%	2.4%	2.9%	1.1%	1.7%
さば	0.0%	1.0%	0.0%	1.8%	1.0%	2.9%	2.2%	1.5%
メロン	0.0%	1.9%	0.7%	0.0%	2.9%	1.2%	0.0%	1.2%
じゃがいも	0.0%	1.0%	1.3%	1.2%	0.5%	1.6%	1.1%	1.1%
豚肉	0.0%	1.9%	1.3%	0.0%	1.4%	0.4%	1.1%	0.9%
人参	2.9%	1.9%	0.7%	0.6%	0.0%	0.4%	1.1%	0.7%
三つ葉	0.0%	1.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.4%	0.0%	0.4%
キス	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.4%	0.0%	0.4%
牛乳	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%
ぶどう	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.2%
もやし	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
ごぼう	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%

問21 地場産品を使うことの利点はなんだと思いますか(主なものを3つまで)

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
新鮮	68.6%	74.8%	79.7%	85.5%	86.1%	86.5%	82.2%	83.0%
安全	37.1%	38.8%	31.4%	36.4%	46.4%	51.2%	47.8%	42.6%
生産者がわかる	31.4%	38.8%	42.5%	40.6%	41.6%	42.6%	44.4%	41.4%
安い	42.9%	20.4%	17.0%	30.9%	31.1%	27.0%	24.4%	26.6%
自給率を上げる	25.7%	21.4%	24.2%	18.2%	18.7%	12.3%	13.3%	17.9%
特に利点はない	5.7%	7.8%	5.9%	9.1%	5.3%	5.7%	6.7%	6.5%
栄養がある	5.7%	1.0%	2.6%	1.8%	1.9%	5.3%	5.6%	3.2%
その他	0.0%	5.8%	2.0%	3.6%	0.0%	1.2%	1.1%	1.9%

その他の意見

30歳代：輸送コスト減、CO2の減少、経済効果

40歳代：経済効果、地産地消、エコ

60歳代：美味しい

問22 どれくらいの頻度で魚を食べていますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
週に5回以上	0.0%	3.9%	3.9%	7.3%	12.0%	18.0%	21.1%	11.0%
週に3～4回	42.9%	29.1%	28.8%	32.1%	51.2%	48.4%	44.4%	40.7%
週に1～2回程度	48.6%	45.6%	56.2%	49.7%	29.7%	27.5%	21.1%	38.0%
月に2～3回	5.7%	14.6%	7.8%	7.3%	4.3%	2.5%	6.7%	6.2%
月に1回程度	2.9%	2.9%	2.0%	2.4%	1.0%	0.8%	0.0%	1.5%
食べない	0.0%	1.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.4%	1.1%	0.5%

問23 平塚の地域特有の料理(郷土料理)がありますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
ある	2.9%	1.9%	1.3%	7.9%	6.7%	5.7%	6.7%	5.2%
ない	97.1%	95.1%	98.7%	87.3%	83.3%	74.2%	63.3%	84.0%

問24 「ある」と答えた方へ 平塚特有の料理(郷土料理)で思い浮かぶ料理名を記入してください

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
たたみいわしあぶり焼き					2		
生シラス					2		
しらす天ぷら					3		1
小松菜パン					1		
きやらぶき					1		
弦斎カレー					4		1
カレーパン					2		
ヤーコン料理							
地魚料理・干物など							1

問25 「村井弦斎という人を知っていますか」

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
食育を唱えた人	8.6%	10.7%	17.0%	32.1%	31.6%	38.1%	42.2%	29.0%
名前だけ知っている	28.6%	36.9%	49.0%	42.4%	44.0%	32.0%	33.3%	39.3%
知らない	62.9%	51.5%	32.0%	23.6%	22.0%	22.1%	17.8%	27.9%

問26 「食育」に関心がありますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
関心がある	14.3%	13.6%	21.6%	21.8%	31.6%	30.7%	33.3%	25.9%
どちらかといえば関心がある	37.1%	37.9%	52.3%	47.3%	41.1%	45.9%	40.0%	44.4%
どちらかといえば関心がない	17.1%	23.3%	17.6%	15.8%	13.4%	11.1%	11.1%	14.8%
関心がない	14.3%	13.6%	5.2%	3.6%	4.3%	2.9%	5.6%	5.4%
わからない	17.1%	10.7%	1.3%	9.1%	6.2%	4.1%	4.4%	6.1%

問27 問26で「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた方へ その理由は(主なものを3つまで)

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
①健康のため	83.3%	60.4%	60.2%	76.3%	75.7%	79.7%	89.4%	74.7%
②食生活の乱れが問題	55.6%	54.7%	54.0%	43.0%	48.0%	38.5%	42.4%	45.8%
③生活習慣病が問題	33.3%	34.0%	32.7%	35.1%	43.4%	48.1%	65.2%	42.7%
④子どもの発育発達	44.4%	47.2%	69.0%	65.8%	39.5%	31.6%	15.2%	44.8%
⑤多くの食品廃棄物	16.7%	5.7%	4.4%	7.0%	2.6%	2.1%	3.0%	4.1%
⑥肥満やせの問題	11.1%	20.8%	8.8%	8.8%	5.9%	9.6%	15.2%	10.0%
⑦食への感謝	5.6%	17.0%	19.5%	15.8%	11.8%	13.9%	6.1%	13.9%
⑧食の安全確保	0.0%	13.2%	11.5%	11.4%	13.8%	4.3%	3.0%	9.1%
⑨食料生産が重要だから	5.6%	1.9%	6.2%	5.3%	12.5%	15.0%	12.1%	10.0%
⑩文化伝統を守る	11.1%	5.7%	1.8%	4.4%	2.0%	2.1%	1.5%	2.8%
⑪消費者と生産者の交流	5.6%	1.9%	0.9%	0.0%	1.3%	2.1%	0.0%	1.3%
⑫輸入に依存	16.7%	7.5%	9.7%	13.2%	26.3%	27.3%	25.8%	20.1%
⑬その他	0.0%	1.9%	1.8%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.7%
⑭時に理由ない	0.0%	1.9%	0.9%	0.9%	0.7%	1.6%	1.5%	1.1%

\*「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と答えた人を100とした割合

その他の理由

- 30歳代: 家族団らんの場合
- 40歳代: エコ、地場活性化
- 60歳代: 美味しいものを食べたい、病気がある

問28「メタボリックシンドローム」と言う言葉を知っていますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
言葉も内容も知っている	65.7%	72.8%	79.7%	77.6%	77.5%	71.3%	66.7%	74.5%
言葉だけ	34.3%	23.3%	18.3%	19.4%	18.7%	17.2%	24.4%	19.9%
知らない	0.0%	2.9%	0.0%	0.6%	1.4%	4.1%	4.4%	2.1%

問29 問28知っていると答えた方へ メタボリックシンドロームについて関心がありますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
関心がある	37.1%	30.3%	37.3%	40.0%	46.8%	49.1%	51.2%	42.9%
どちらかといえば関心がある	25.7%	35.4%	42.7%	48.1%	39.3%	38.4%	24.4%	38.9%
どちらかといえば関心がない	11.4%	24.2%	14.7%	5.6%	7.0%	6.9%	13.4%	10.5%
関心がない	17.1%	8.1%	4.7%	5.0%	3.0%	1.4%	3.7%	4.3%
わからない	8.6%	5.1%	0.7%	1.3%	3.0%	3.2%	6.1%	3.1%

問30 食事バランスガイドを知っていますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
言葉も内容も知っている	42.9%	19.4%	27.5%	31.5%	30.1%	18.4%	18.9%	25.4%
言葉だけ	20.0%	30.1%	35.9%	26.1%	32.1%	31.6%	34.4%	31.1%
知らない	37.1%	49.5%	35.9%	40.6%	33.5%	40.6%	40.0%	39.1%

問31 食生活に関する食情報〔栄養・健康・ダイエット・健康食品など〕に興味や関心がありますか

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
ある	60.0%	73.8%	78.4%	83.6%	76.1%	74.6%	72.2%	76.2%
ない	34.3%	25.2%	20.3%	14.5%	20.6%	19.7%	20.0%	20.2%

問32 問31「ある」と答えた方へ その情報はどこから得ることができましたか(主なもの3つまで)

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
テレビ、ラジオ	71.4%	78.9%	83.3%	77.5%	82.4%	84.1%	92.3%	82.3%
新聞	19.0%	27.6%	39.2%	55.8%	60.4%	67.6%	76.9%	54.9%
雑誌、専門書	52.4%	61.8%	54.2%	55.8%	54.1%	35.7%	30.8%	48.8%
友人・家族	38.1%	26.3%	26.7%	21.0%	27.7%	36.3%	40.0%	29.6%
インターネット	57.1%	47.4%	33.3%	25.4%	13.8%	4.9%	3.1%	20.5%
病院	0.0%	5.3%	5.0%	6.5%	9.4%	17.0%	21.5%	10.4%
保育所幼稚園学校	42.9%	15.8%	13.3%	12.3%	10.1%	4.4%	0.0%	10.2%
食に関する教室	0.0%	0.0%	2.5%	2.2%	4.4%	3.3%	3.1%	2.8%
公民館	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.5%	2.7%	3.1%	1.7%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	3.1%	2.7%	0.0%	1.7%
電話相談、相談会場	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問33 平塚市で行っている食育事業を知っていますか(知っているものすべて)

	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
湘南朝市	28.6%	20.4%	29.4%	38.2%	45.5%	59.8%	54.4%	42.9%
湘南ひらつかふれあいマーケット	28.6%	30.1%	26.1%	42.4%	39.7%	44.3%	43.3%	38.1%
村井弦斎まつり	20.0%	21.4%	25.5%	40.0%	41.1%	32.4%	38.9%	33.4%
健康フェスティバル	20.0%	17.5%	19.6%	43.6%	38.3%	35.7%	35.6%	32.6%
魚まつり	5.7%	6.8%	13.1%	22.4%	30.1%	32.4%	43.3%	24.7%
JA湘南でてこいまつり	14.3%	15.5%	13.1%	17.0%	30.6%	31.1%	24.4%	23.1%
学校給食試食会	14.3%	10.7%	18.3%	30.9%	18.2%	11.5%	3.3%	16.4%
健康教室	2.9%	1.9%	8.5%	13.3%	20.1%	26.2%	21.1%	16.3%
離乳食教室	5.7%	10.7%	28.1%	17.6%	12.4%	7.4%	2.2%	13.1%
歯の健康フェスタ	8.6%	2.9%	11.1%	18.2%	11.0%	7.8%	6.7%	10.1%
親子料理教室	2.9%	1.9%	9.8%	9.1%	8.6%	11.1%	6.7%	8.4%
保育園・幼稚園給食試食会	5.7%	2.9%	20.3%	8.5%	2.9%	4.9%	1.1%	6.9%
親子収穫体験会	0.0%	1.9%	5.2%	8.5%	4.8%	4.9%	4.4%	5.0%
消費生活展	2.9%	2.9%	2.6%	4.8%	3.8%	6.6%	4.4%	4.4%

問34 食育に関して様々なイベントが行われていますが、次のイベントに参加したいと思いますか

		16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	全体
食の安全関係	参加したい	25.7%	21.4%	29.4%	33.3%	34.0%	26.6%	26.7%	29.1%
	参加したくない	37.1%	29.1%	25.5%	16.4%	18.2%	18.0%	7.8%	19.8%
	どちらともいえない	31.4%	46.6%	44.4%	44.2%	41.1%	45.1%	32.2%	42.5%
栄養改善教室	参加したい	22.9%	15.5%	26.8%	27.3%	29.7%	20.5%	15.6%	23.6%
	参加したくない	40.0%	31.1%	26.1%	17.6%	18.2%	20.5%	6.7%	20.9%
	どちらともいえない	31.4%	49.5%	45.8%	48.5%	45.0%	48.8%	32.2%	45.4%
栄養改善イベント	参加したい	25.7%	25.2%	34.6%	29.7%	29.7%	23.4%	17.8%	27.2%
	参加したくない	37.1%	29.1%	20.9%	17.6%	17.2%	18.9%	5.6%	19.1%
	どちらともいえない	31.4%	42.7%	43.8%	44.8%	45.9%	47.5%	30.0%	43.5%
農業・漁業体験交流	参加したい	25.7%	33.0%	39.2%	38.2%	27.8%	18.9%	12.2%	28.1%
	参加したくない	42.9%	25.2%	20.3%	17.0%	21.5%	24.6%	8.9%	21.3%
	どちらともいえない	25.7%	38.8%	39.9%	37.6%	43.5%	45.9%	31.1%	40.3%
地場産品紹介	参加したい	17.1%	28.2%	46.4%	50.3%	44.5%	38.9%	27.8%	40.2%
	参加したくない	40.0%	29.1%	15.7%	10.9%	11.5%	17.6%	5.6%	15.8%
	どちらともいえない	37.1%	39.8%	37.3%	32.7%	36.8%	33.2%	28.9%	34.9%

《複数回答の記載がない場合は、あてはまるものを選んで1つに○をしてください》

## 食育推進のための実態調査票

《複数回答の記載がない場合は、あてはまるものを選んで1つに○をしてください》

問1 あなたの性別を教えてください

- ① 男性      ② 女性

問2 あなたの年齢は、次の中からあてはまるものを選んでください

- ① 0～5歳      ② 6～10歳      ③ 11歳～15歳      ④ 16～19歳  
⑤ 20歳代      ⑥ 30歳代      ⑦ 40歳代      ⑧ 50歳代  
⑨ 60歳代      ⑩ 70歳～

問3 あなたのお住まいの地区は次のどちらですか

- ① 平塚地区      ② 海岸地区      ③ 大野東地区      ④ 大野西地区  
⑤ 神田地区      ⑥ 豊田地区      ⑦ 岡崎地区      ⑧ 城島地区  
⑨ 金田地区      ⑩ 金目地区      ⑪ 土沢地区      ⑫ 旭地区

問4 次の中から、あなたに、もっともあてはまるものを選んでください

- ① 自営業      ② 農林漁業      ③ 会社員、公務員、団体職員  
④ 学生（児童、生徒）      ⑤ パートタイム・アルバイト等      ⑥ 家事専業  
⑦ 無職      ⑧ その他（具体的に：      ）

問5 あなたの健康状態は次のどちらですか

- ① 大変よい      ② よい      ③ 普通      ④ あまりよくない      ⑤ よくない

問6 あなたは日ごろ、次のうちで感じることはありませんか 主なもの1つを選んでください

- ① 眠い      ② 朝起きられない      ③ だるい      ④ やる気がしない  
⑤ イライラする      ⑥ ボンヤリする      ⑦ 体調をくずしやすい  
⑧ 特に感じることはない      ⑨ その他（      ）

問7 あなたの現在の家族構成は次のどちらですか

- ① 一人暮らし      ② 夫婦だけ      ③ 親と子（2世代）  
④ 祖父母と親と子ども（3世代）      ⑤ その他（具体的に：      ）

問8 あなたの外食をする回数ほどのくらいですか（外食とは食堂、レストラン等で食べること）

- ① ほとんどしない      ② 週に1回      ③ 週に2～3回  
④ 週に4～5回      ⑤ 週に6回以上

問9 あなたのレトルト食品、加工食品、調理済み食品などを食べる（使う）回数ほどのくらいですか

- ① ほとんど食べない（使用しない）      ② 週に1回      ③ 週に2～3回  
④ 週に4～5回      ⑤ 週に6回以上

次ページへ続きます





《複数回答の記載がない場合は、あてはまるものを選んで1つに○をしてください》

問25 「村井弦斎(むらいげんさい)」という人を知っていますか

- ① 平塚在住で、100年前に食育が大切と唱えた人
- ② 名前だけは知っているがどういう人かは知らない
- ③ 知らない

問26 「食育」について関心がありますか

- ① 関心がある
- ② どちらかといえば関心がある
- ③ どちらかといえば関心がない
- ④ 関心がない
- ⑤ わからない

問28へ

食育基本法の中では、「食育」を

- ①生きる上での基本であって、知育・徳育及び体育の基礎となるべきもの
- ②様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることと位置付けています。

問27 問26で①、②と答えた方へ 「食育」に関心がある理由は何ですか

《主なもの3つまで選んで番号に○をしてください》

- ① 健康な心身を保つために必要だから
- ② 食生活の乱れ(栄養バランス、不規則な食事など)が問題になっているから
- ③ 生活習慣病(がん、糖尿病等)の増加が問題になっているから
- ④ 子どもの心身の健全な発育のために必要だから
- ⑤ 大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから
- ⑥ 肥満ややせすぎが問題になっているから
- ⑦ 自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから
- ⑧ 牛海綿上脳症(BSE)の発生など食品の安全確保が重要だから
- ⑨ 有機農業など自然環境と調和した食料生産が重要だから
- ⑩ 食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから
- ⑪ 消費者と生産者間の交流や信頼が足りないと思うから
- ⑫ 食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから
- ⑬ その他( )
- ⑭ 特に理由はない

問28 「メタボリックシンドローム」という言葉を知っていますか

また、その内容を知っていますか

- ① 言葉も内容も知っている
- ② 言葉は知っていたが内容は知らない
- ③ 言葉も内容も知らない ⇒ 問30へ

メタボリックシンドロームとは、

(Metabolic Syndrome)

内臓脂肪型肥満に、高血糖・高血圧・高脂血症のうち、2つ以上を合併した状態をいいます。

問29 問28で、①②と答えた方へ

メタボリックシンドロームについて関心がありますか

- ① 関心がある
- ② どちらかといえば関心がある
- ③ どちらかといえば関心がない
- ④ 関心がない
- ⑤ わからない

次ページへ続きます

《複数回答の記載がない場合は、あてはまるものを選んで1つに○をしてください》

問30 国は、健康づくりのため、バランス良い食べ方を普及する目的で、「食事バランスガイド」を作りました。この「食事バランスガイド」の言葉を知っていますか



また、その内容を知っていますか

- ① 言葉も内容も知っている
- ② 言葉は知っていたが、内容は知らなかった
- ③ 言葉も内容も知らなかった

問31 食生活に関する情報(栄養・健康・ダイエット・健康食品など)に興味や関心がありますか

- ① ある
- ② ない ⇒問33へ

問32 問31で①「ある」と答えた方へ

その情報はどこから得ることができましたか 《主なもの3つまで選んで番号に○をしてください》

- ① テレビ・ラジオ
- ② 新聞
- ③ 雑誌、専門書
- ④ インターネット
- ⑤ 学校や職場
- ⑥ 食に関する教室
- ⑦ 病院
- ⑧ 公民館
- ⑨ 友人・家族
- ⑩ 電話相談や相談会場
- ⑪ その他(具体的に: )

問33 平塚市で行っている食育事業を知っていますか

《知っているものすべてに○をしてください 無い場合は記入は不要です》

- ① 湘南朝市
- ② 魚まつり
- ③ 親子収穫体験
- ④ 親子料理教室
- ⑤ 離乳食教室
- ⑥ 健康教室(生活習慣病予防)
- ⑦ 消費生活展
- ⑧ 弦斎まつり
- ⑨ ひらつか湘南ふれあいマーケット
- ⑩ 学校給食試食会
- ⑪ 保育園・幼稚園給食試食会
- ⑫ 歯の健康フェスタ
- ⑬ でてこいまつり
- ⑭ 健康フェスティバル
- ⑮ その他(具体的に: )

問34 食育に関して、様々なイベントなどが行われていますが、次のイベントに参加したいと思いますか

食の安全・安心について学べる講習会・・・①参加したい ②参加したくない ③わからない

食生活の改善等について学べる教室・・・①参加したい ②参加したくない ③わからない

食生活の改善等について学べるイベント・・・①参加したい ②参加したくない ③わからない

農業・漁業などの体験・交流イベント・・・①参加したい ②参加したくない ③わからない

地場産品を紹介するイベント・・・・・・・・①参加したい ②参加したくない ③わからない

その他参加してみたいイベント・・・・・・・・(具体的に: )

《複数回答の記載がない場合は、あてはまるものを選んで1つに○をしてください》

問35 「食育」について、ご意見ご要望があれば、お聞かせください

-----

-----

-----

御協力ありがとうございました。 平塚市食育推進委員会

平塚市地区一覧 <問3のお住まいの地区がわからない場合にご利用ください>

住所	地区	住所	地区	住所	地区	住所	地区					
あ	明石町	1 平塚	さ	桜ヶ丘	1 平塚	た	豊田打間木	6 豊田	は	日向岡	12 旭	
	天沼	1 平塚		真田	10 金目		豊田小嶺	6 豊田		平塚	1 平塚	
	飯島	9 金田		下吉沢	11 土沢		豊田平等寺	6 豊田		平塚新宿	1 平塚	
	出縄	12 旭		四之宮	3大野東		豊田本郷	6 豊田		広川	10 金目	
	入野	9 金田		下島	8 城島		豊田宮下	6 豊田		富士見町	1 平塚	
	入部	9 金田		新町	4大野西		豊原町	1 平塚		ふじみ野	7 岡崎	
	榎木町	1 平塚		須賀	2 海岸		な	中里		1 平塚	札幌町	2 海岸
	老松町	1 平塚		藁平	2 海岸	中堂		1 平塚		紅谷町	1 平塚	
	追分	4大野西		諏訪町	1 平塚	長瀨		1 平塚		ま	松風町	2 海岸
	大神	5 神田		浅間町	1 平塚	中原		4大野西			纏	12 旭
	大島	8 城島		千石河岸	2 海岸	中原上宿		4大野西			万田	12 旭
	大原	4大野西		千須谷	10 金目	中原下宿		4大野西			見附町	1 平塚
	岡崎	7 岡崎		袖ヶ浜	2 海岸	長持		9 金田			南金目	10 金目
	か	片岡		10 金目	た	代官町	2 海岸	撫子原			2 海岸	南豊田
上吉沢		11 土沢	高根	12 旭		虹ヶ浜	2 海岸	南原	4大野西			
上平塚		1 平塚	高浜台	2 海岸		錦町	1 平塚	宮の前	1 平塚			
北金目		10 金目	高村	12 旭		西真土	3大野東	宮松町	1 平塚			
北豊田		6 豊田	宝町	1 平塚		西八幡	3大野東	桃浜町	2 海岸			
城所		8 城島	達上ヶ丘	1 平塚		根坂間	12 旭	や	八重咲町	2 海岸		
公所		12 旭	立野町	1 平塚		は	花水台		2 海岸	八千代町	1 平塚	
久領堤		2 海岸	田村	5 神田			馬入		1 平塚	山下	12 旭	
黒部丘		2 海岸	土屋	11 土沢			馬入本町		1 平塚	八幡	3大野東	
河内		12 旭	堤町	1 平塚			東真土		3大野東	夕陽ヶ丘	2 海岸	
御殿		4大野西	寺田縄	9 金田			東豊田		6 豊田	横内	5 神田	
小鍋島		8 城島	唐ヶ原	2 海岸			東中原		4大野西	吉際	5 神田	
さ		幸町	2 海岸				徳延	12 旭	東八幡	3大野東	ら	龍城ヶ丘